

令和5年度
(第19回)

運営諮問会議報告書

令和6年3月

新居浜工業高等専門学校

はじめに

新居浜工業高等専門学校では、学校の管理運営に関して外部の有識者の皆様からご意見を伺う運営諮問会議を平成16年度から毎年度一回開催しています*。今回は令和6年2月1日に第19回目会議を新居浜高専内の階段教室にて開催致しました。

国立高専機構は、平成16年の独立行政法人化以降5年ごとに中期目標を立て、今年度は第4期中期目標期間の最終年度となっています。第4期の重点課題において、その成果確認が求められており、高専機構本部を通して文部科学省に報告致します。そして令和6年4月からは第5期中期中間目標が新たに定められて、本校もこの方針に基づいて、その実施に取り組んでいくことになります。

第4期では、より一層のグローバル化と、各高専がこれまでに培ってきた強みを活かすような特色ある学校づくりが求められていました。また、産業界からは、新しい価値を創造できる人材、変化に対応できる人材、実践的・探求的な人材などの育成が求められています。特に令和4年度文部科学省補正予算において、アントレプレナーシップ関連にて「高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業」の公募があり、本校も大型予算獲得に成功しました。本年度、起業を目指す学生が主体となって「起業挑戦研究会」を立ち上げて、6つのチームが起業を目指したテーマのもとアイデアを出し合い、試作なども行っております。この成果は、スタートアップコンペティションとして、3月5日に新居浜高専工業技術懇談会にて各チームの発表を行います。特に高い評価のテーマは表彰を行って、さらに支援の継続を検討しております。

また本年度は新たな地域に貢献できる次世代型技術者の育成として、高専機構が行っている「COMPASS5.0事業」蓄電池分野の拠点校として本校と石川高専が高専機構から指名をされました。この2高専で蓄電池テーマにおける教育パッケージ等を作り人材育成を進めることを目標として、今後5年間に渡り予算措置を受けながら全国高専へ展開をしてまいります。

このような取組には、自己点検と外部からの視点に基づく評価が重要であります。この運営諮問会議では、地域のステークホルダーの有識者の皆様から様々なご意見を伺い、頂きましたご指摘等は今後の新居浜高専の管理運営の参考とし、改善・改革に役立てていきたいと考えています。

今後とも、本校に対してご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年3月

新居浜工業高等専門学校
校長 鈴木 康司

*平成19年度は不開催。

目 次

はじめに

1. 運営諮問会議次第	-----	1
2. 運営諮問会議委員名簿	-----	2
3. 学校側出席者名簿	-----	3
4. 議事録	-----	5
5. 説明資料	-----	1 7
6. 令和5年度 年度計画及び進捗状況	-----	3 8
7. 新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程	-----	4 9

第19回新居浜工業高等専門学校運営諮問会議 次 第

1 日 時 令和6年2月1日(木) 14:00～16:30

2 場 所 新居浜工業高等専門学校 階段教室

3 日 程

時 刻	事 項
14:00	開会 校長挨拶、委員紹介、学校側出席者紹介、議長選出
	議題
14:10	1. 学校概要について-----校長
14:25	2. 前回会議における委員からの主な意見とその対応状況について -----副校長(総務企画担当)
14:30	3. 昨年度の活動状況と自己点検に基づく、令和5年度の新たな取組について (1) 教育に関する事項 -----教務主事 専攻科長 情報教育センター長
14:55	(質疑応答)
15:15	(休憩)
15:25	(2) 学生支援に関する事項 -----学生主事 寮務主事
15:40	(3) 研究・地域連携、及び社会貢献活動に関する事項 -----高度技術教育研究センター長 エンジニアリングデザイン教育センター長
15:55	(4) 国際交流に関する事項---- グローバル教育センター長
16:05	(5) 男女共同参画に関する事項---- 男女共同参画推進室長
16:10	(6) 点検・評価に関する事項-----副校長(評価担当)
16:15	(質疑応答)
	4. 総評
16:30	閉会

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿

任期：～令和6年3月31日
(五十音順・敬称略)

氏 名	現 職
石 川 勝 行	新居浜市長
客 本 宗 嗣	愛媛県東予地方局長
篠 原 和 彦	愛媛県小中学校長会 理事 新居浜市立北中学校 校長
高 橋 寛	国立大学法人愛媛大学大学院理工学研究科工学系長 国立大学法人愛媛大学工学部長
平 田 利 實	ユースエンジニアリング(株) 元代表取締役社長 (本校電気工学科 昭和44年卒業)
松 下 博 彦	住友金属鉱山(株) 執行役員 別子事業所長
横 川 明 英	新居浜商工会議所 会頭

代理出席者

(敬称略)

藤 田 敏 樹	新居浜商工会議所 専務理事
---------	---------------

学校側出席者名簿

職 名	氏 名
校 長	鈴 木 康 司
副校長（総務企画担当）	福 田 京 也
副校長（評価担当）	日 野 孝 紀
副校長（改革担当）	早 瀬 伸 樹
教 務 主 事	衣 笠 巧
学 生 主 事 (兼)保健管理センター長	志 賀 信 哉
寮 務 主 事 (兼)グローバル教育センター長	野 田 善 弘
専 攻 科 長	加 藤 克 巳
高度技術教育研究センター長 (兼)電気情報工学科 主任	香 川 福 有
高度技術教育研究センター 研究推進部門長	松 友 真 哉
高度技術教育研究センター 地域連携部門長	吉 川 貴 士
高度技術教育研究センター 高度教育部門長	堤 主 計
エンジニアリングデザイン 教育センター長	松 田 雄 二
情報教育センター長	栗 原 義 武
男女共同参画推進室長	白 井 みゆき
機械工学科 主任	浅 地 豊 久
電子制御工学科 主任	城 戸 隆
生物応用化学科 主任	中 山 享
環境材料工学科 主任	松 英 達 也
数理科 主任	古 城 克 也
一般教養科 主任	佐 伯 徳 哉
事 務 部 長	朝 國 誠 司
総 務 課 長	保 科 保
学 生 課 長	徳 増 耕 平

議 事 録

議事及び質疑応答の概要

議事

- 1 学校概要について …… 校長
- 2 前回会議における委員からの主な意見とその対応状況について
…… 副校長
(総務企画担当)
- 3 昨年度の活動状況と自己点検に基づく、令和5年度の新たな取組について

(1) 教育に関する事項 …… 教務主事
専攻科長
情報教育センター長

【担当者から配付資料に基づき説明】

【高橋議長】

ありがとうございました。ここで少し時間がありますので、これまでの説明について、委員のみなさんから意見を伺いたいと思います。慣例ではございますが、名簿順にお願いいたします。



【石川委員】

就職先の話ですが、就職者の約22%が新居浜市内に就職していただいております。住友系で言いますと、高専から住友金属鉱山株式会社、住友化学株式会社への就職者は多いと聞いております。先日、住友重機械工業株式会社から、機械関係以外の電気の技術者が非常に欲しいということで高専へPRをして欲しいという依頼がありました。高専には電気・電子系の学科がおありですのでお願いします。

また、以前からお願いしておりますが、共同研究の実績がなかなか増えません。新居浜市の方でも補助金制度がございますので、積極的に企業との共同研究をお願いします。

新居浜市の令和6年度の新しい事業といたしまして、デジタル技術を活用した起業家創

出支援事業を考えております。起業家を目指す、或いはデジタル技術の向上を図りたいという人材が集まり、互いに交流を図る場を作ること、専門の講師を呼んで、講演していただくことなどを考えております。

実はアプリ開発では高専の卒業生でもあるNoCodeCamp代表 宮崎翼さんに講師をお願いしようと考えております。

その他、先ほどの鈴木校長の説明にありました、高専スタートアップ教育環境整備事業とコラボができたらとも考えますので併せてお願いできたらと思います。よろしく申し上げます。



【客本委員】

本日は、ご説明いただきありがとうございます。私からは、日頃の御礼の方から申し上げさせていただきます。

愛媛県関係の様々な事業にご協力をいただきまして、本当にありがとうございます。

愛媛県と新居浜高専で包括連携協定を締結させていただいておりますが、今後より一層の連携をお願いいたします。

また、東予地方局の関係の事業で2つございますが、東予東部ものづくり次世代人材の確保対策事業ということで、先生方と企業の皆さんとの意見交換会や、ものづくり企業の出張講座、体験イベント、インターンシップ等の事業にもご参加いただきました。

昨年、東予地方局で高専生を対象としたウェブサイトやSNS（高専color）を開設したところ、国領祭において、ブース出展をさせていただき直接PRさせていただくことができました。本当にありがとうございました。機械工学科の吉川先生を中心に協力いただいております。

東予地方局のもう一つの事業としては、農林関係がございます。デジタルを活用した地産地消・食育ということで、小学校の給食における地場産品の使用率の向上を図るため、ポータルサイトを開設させていただいております。その際に、サイト内の作物の育成シミュレーションコンテンツの作成に電気情報工学科の袖先生を中心に協力をいただきました。ありがとうございます。

全庁的な部分で言いますと、デジタル人材育成推進会議やIT人材バンクにもご参画をいただいております。この分野ですが、新居浜市、東予地域と限定せずに、市、町も含めてオール愛媛での取り組みが必要になろうかと思っておりますので、ぜひIT関係でも積極的なご提言をいただければと存じます。

12月には学生さん30人ぐらいに参加いただき、県内企業とのビジネスアイデア会議を開催していただきました。その会議では、学生さんと県内企業の間で、企業の課題解決

の色々なディスカッションができた聞いております。このような取り組みも引き続き進めていただけたらと思います。

総合科学博物館との連携イベントといたしまして、「モールス信号を受信してみよう」ということで、その時は小学生のご家族の方が多かったかと思いますが、高専生のアウトリーチ活動の一環として、一般の市民の方にも参加いただいております。

本当にこのような形で大勢の先生方、スタッフの皆さんに参加いただいております。この場をお借りしまして、改めて感謝申し上げます。

これは、要望になってしまいますが、地元自治体にとって、一番気になりますのは県内就職の状況でございます。日頃から企業経営者や採用担当者の方と先生方が接する場合、例えば、「今の学生の関心はこういったところにある」とか、「会社選びの決め手は、こういうところだったようですよ」、とか、ささやきでいいので、ぜひ企業の経営者の方や採用担当の方に繋いでいただければありがたいです。企業側は、学生さんの現場の声をキャッチすることで、対応がしやすくなりますのでよろしくお願いいたします。

それから、最後にもう一つ、先ほどの説明の中で専攻科の方々に対して、ベンチャービジネス概論や、起業工学の話が出てまいりました。非常に楽しみな動きだと思います。そういった若い方々が起業することにあたり、この新居浜、東予地域で起業することになれば非常に多種多様なネットワークも広がり、若者が起業しやすい町というイメージにも繋がるかと思っておりますので、今後の展開を楽しみにしております。

私からは以上です。ありがとうございます。

【篠原委員】

私は中学校の校長をしております。

小中学校との連携というところで、日頃から本当にお世話になっております。また、様々な体験活動に生徒を参加させていただいております。私は、技術の教員でもありますので、この夏休みに夏季実技研修会に参加させていただきました。半日の開催ではありましたが、高専の施設が非常に充実していたため、本当に満足のいく研修ができて、大変ありがたいかったです。実のところは、もっとたくさんの教員を研修に参加させて、より刺激を受け、それを子供達に返したいところですが、今、みなさんもお存知の通り、小中学校の教員は、長時間勤務に追われてブラックであるということで、教員がなかなか配置、補充されないということもあって、夏休みもフラフラ状態です。このような場で愚痴を言っても仕方がないのですが、そのような状況の中で、研修の機会をいただけるのは、本当ありがたいですね。

私も日々の業務のなかで教員が足りないということを日頃から思っていたところ、「教員



定員減に対応した授業等の業務改善」の報告があり、高専の教員も定員が減っていたのか、これはどういうことなのだろう。また、定員減に対して業務の改善をされているということですので、どういう事をされているのか聞かせていただいて、我々も負担が多い中で頑張っていますので参考になればと思っています。よろしくお願いします。

【鈴木校長】

教員定数減というのは、我々が独立行政法人になった時に、規則に盛りこまれており、効率化係数が求められます。一般的な財源に関わるところで3%、人件費で1%が毎年減りますということです。そうすると、本校の教員が約80名弱ぐらいですから、1%というと1名減になり、10年間減り続けております。教員がピークの時から言いますと10名減りました。これがまだ続くのかというと非常に恐ろしいのですが、つい1週間前に、高専機構本部から説明会があり、本部と財務省が現在セッションをしております、こちらの方は多分廃止になるだろうと思います。

それでは、その10名を減らした分、何をしたかと申しますと、どうしても授業を削らなければ、物理的に間に合わず、開講科目を減らしたり、2クラス同時に行う授業を取り入れたりしました。

高専は、高校と大学の間になりますので、1単位を出すのに、90分の授業を行うのか、あるいは、45分、50分の授業を行う方法もありますので、その45分、50分で1単位を与える授業を増やしました。ただ、これは当然ながら学生に自学自習をしっかり行わせて、その証拠に宿題やレポート提出をさせて、初めて単位を認めるというやり方ですが、所詮そういうところも、ほぼ限界に近づいてきました。

そこで、今まで選択科目で開講していた授業科目数を減らさざるを得ないということもありますが、先ほど申し上げたように、定員削減は、おそらく廃止されると考えております。



【平田委員】

私は、新居浜高専の3期生ですので、この階段教室は、非常に懐かしく、きれいになったなと感じます。この新居浜高専は国立高専第1期校であり、当時は教科書もない、学校の規則もない、何もないところから始まったわけですね。先ほどまでの色々な報告の中で「自主性を尊重する校風」というのがあり、これが1番大事なところだと思います。

これは、提案の一つになりますが、その当時の1期生は、間もなく80歳近いのですが、何もないところから物を作っていく自主自立の精神と言いますか、パイオニア精神で進んできたという思いがありますので、1期生の一人を招いて、例えば、この階段教室で学生にその考え方と言いますか、何もないところからどうやって築き上げていくのかという講演

を行ってはどうでしょうか。1期生の中に、今、ハワイでずっと頑張ってきた先輩がいますので、そういった方に講演をお願いできたら、自主性を尊重する校風にブラッシュアップができるのではないかなと思います。

毎年お話しておりますが、新居浜市の教育委員会主催で、愛媛県発明協会の新居浜市少年少女発明クラブがあります。場所や指導員として新居浜高専さんに一役買っていていただき、大変お世話になっております。

2019年に発足した当時に「僕は大きくなったら高専へ行くんだ。」と話していた子供たちが今年中学3年生となり、高専を受験するそうです。結果はわかりませんが、そういう年齢になったと感慨深いものがあります。これからは、毎年こういう子供たちがクラブから出てきますので、楽しみにしたいと思います。

以上でございます。ありがとうございます。

【高橋議長】

はい、ありがとうございます。

それでは、藤田様お願いいたします。

【藤田氏（横川委員代理）】

新居浜商工会議所からは、学生の就職支援についてです。県内の主要な大学で言いますと、愛媛大学には就職支援課が、松山大学ではキャリアセンター課があり、事務局に就職支援の組織があるようですが、新居浜高専は組織図を見ると、そういった事務局部門が見当たりませんが、将来的にどう考えておられるのかお聞かせいただけたらと思います。



【志賀学生主事】

学生主事の志賀と申します。ご質問ありがとうございます。

現在、新居浜高専において、就職支援の窓口になっているのは、学生・図書係です。学生・図書係に企業から、「就職担当教員と面談をしたい」という情報がきますと、教員の空き時間を考慮してマッチングをし、日時、場所を決定しまして面談をいたします。通常は各学科の5年生の担任が就職指導を担当しており、面談以降はその担任と企業とで話を進めていくという形になっております。

したがって、大学の就職サポートセンターに類する組織は、現在は新居浜高専にはございません。今後どうするかということについて、今現在、その方向性は定まっておりますが、将来的にそういった組織も必要になってくるかと思っておりますので、今後、検討してまいります。

【藤田氏（横川委員代理）】

新居浜高専は就職率がいいと言うことはありますが、やはり募集をかける企業サイドとしては、実務を担当しているところに就職関連の名称があり、組織図に名前があれば分かりやすいのではということをし少し思いました。

我々のPRになりますが、3月23日土曜日に、市内37社にお越しいただいて、新居浜商工会館で合同会社説明会を開催いたします。パンフレット等につきましては、もうすでに高専へお持ちさせて頂いておりますので、ぜひ学生の皆さんに周知して頂きまして、お越しいただいたらと考えておりますので、ご協力の程よろしく申し上げます。以上でございます。ありがとうございました。

【高橋議長】

今までのところが、前半になります。それでは後半は、予定通りに15時25分に開始ということで、よろしく申し上げます。

～ 休 憩 ～

【高橋議長】

それでは時間になりましたので、議事を再開いたします。

議事

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| (2) 学生支援に関する事項 | 学生主事 |
| (3) 研究・地域連携、及社会貢献活動に関する事項 | 高度技術教育研究センター長 |
| (4) 国際交流関係に関する事項 | グローバル教育センター長 |
| (5) 男女共同参画に関する事項 | 男女共同参画推進室長 |
| (6) 点検・に関する事項 | 副校長（評価担当） |

【担当者から配付資料に基づき説明】

【高橋議長】

はい、説明ありがとうございます。それでは今までのところで何かございましたら、今回は、特にあればお願いします。

【客本委員】

一つ教えていただきたいのですが、議題の3（3）の高度技術教育研究センターの関係で、蓄電池の拠点校に採択されたということで、大変注目されると思いますが、採択されたポイントや、我々が社会から見たときに、4年後はどんな形で見えるようになるのか、差し支えない範囲で結構ですので、教えていただけたらと思います。

【香川高度技術教育研究センター長】

拠点校として採択のポイントですが、この新居浜市は、蓄電池のサプライチェーン関連企業の大手が、2社ほどあります。そういった地域性と、もう1点は本校の学科構成が非常に充実しているということが考えられます。蓄電池そのものの材料に関する環境材料工学科、蓄電池の化学反応に関する生物応用化学科、作る工程に関する機械工学科、そして作ったものを利活用という意味で電気情報工学科と電子制御工学科があります。このことが総合的に評価されて、採択されたと考えております。

私が考える4年後は、この蓄電池産業が更に発展することにより、この地域の地元就職が更に増えていくのではないかと期待しております。

【高橋議長】

はい以上でよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。他にございますか。

【篠原委員】

保健管理センターの外部機関との連携の新居浜市教育委員会、人権課との連携で思いついたのですが、高専では、人権・同和教育は何か取組はありますか。高校では本当に少ない時間ですが実施しているそうなので、高専としてはどうでしょうか。

【衣笠教務主事】

人権・同和教育としてのカリキュラムは特に設けておりません。本校は、これまで新居浜市教育委員会とはあまり関わりがなかったのですが、数年前から会議に出席をさせていただくようになりまして、そこで状況を把握していると思います。

【野田寮務主事】

昨年度、保健管理センターを担当しておりました野田です。連携ということですが、以前、教育委員会さんから本校へ来ていただきまして、こういう活動があるので、高専にもぜひ入ってもらいたいと言う話がありました。なかなか高校のように人権担当の教員を決めて、全てのプログラムといいますか、イベントにはなかなか出席ができないのですがというお

話をした上で、それでもやはり一緒に活動をして欲しいということがございました。
そこで、昨年からということで、今年度からスタートした感じですので、これから、できる限り少しでも参加をさせていただいて、これからどういうことをやっていこうかと言うところですので教育委員会からのご指導をいただきながら人権・同和教育を考えていきたいと思っております。

【篠原委員】

私の新規採用地は西条市でした。校長になってからは、現在の新居浜市立北中学校の前は四国中央市立川之江北中学校で勤務しておりました。その西条市、四国中央市、新居浜市のそれぞれの市は人権・同和教育を熱心に行っております。

実は川之江北中学校、新居浜市立北中学校から、高専へ人権・同和教育のリーダーのような高い意識を持った生徒が来ていますので、これまで各校で学習してきたことを交流できるような機会があれば、人権教育のリーダーとして活躍できると思います。

また、新居浜市は、毎月11日を「人権のつどい日」として、人権に関する話を聞く機会がありますので、学生たちに宣伝をしていただきますと、中学校での活動を活かして、おそらく高専の中にも何人かは参加したいという学生が出てくると思います。

2月11日に奈良県の水平社博物館長が新居浜市民文化センターで講演をしていただくことになっておりますので、このようなことも周知していただければ、より一層人権意識が上がるのではと思いますので、またよろしく申し上げます。

【野田寮務主事】

昨年、教育委員会の方がお見えになったときに、「新居浜高専の学生さんがここで発表するのはですよ。」という話を伺いました。これまでは、我々の方に人権・同和教育について十分な理解がなかったので、ぜひ勉強させていただいて、情報をいただいたときには、学生へ周知していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

【藤田氏（横川委員代理）】

新居浜商工会議所でございます。

これは、お願いになりますが、IT人材の育成については、先ほどの説明の中で、だいぶ力を入れていただいております非常にありがたく思っております。

我々会員の特にものづくり企業に関して、DXの導入は、今のところまだ時間を要すると思っております。ただ、実際にDXが本格的になり始めた時に対応できるようなIT人材の確保は非常に重要であると会員各社に伝えておりますので、引き続きIT人材の強化をぜひお願いしたいと考えております。

それから、これは少し言いにくい話になりますが、高専と言うことで、一般の大学と同じように自由な校風の中で、学生に対して自己管理が求められますが、他の高校と比べて、留

年や中退が少し多いかなと感じております。せっかく入学した貴重な学生を、特にものづくり企業への人材提供の教育機関として、うまく育てていただけたらと思います。

【石川委員】

私は、最初に認識不足で企業との共同研究が少ないのではという話をしたのですが、後の報告をお聞きして、企業との共同研究・受託研究が新規15件、継続6件あり、新居浜市内では6件もあることがわかりました。そこで、どんな研究をどこで実施したということができる範囲で公表をしていただければ、もっと他の企業から高専さんをお願いをして、研究をやりたいという企業が出てくるのではと思います。

先ほども申しましたが、新居浜市でも若干ではございますが、補助金の予算がありますので活用してPRをしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【高橋議長】

それでは、時間をいただきまして、総評を行わせていただきます。

まずは、コロナ感染予防のステージが変わる中で、社会状況の急激な変化に対応して、学生の学びを止めない活動に対して敬意を表します。

定員確保に関しては、さまざまな広報活動を実施された結果、志願者数がコロナ禍前の水準になっていることが評価できます。さらに女子学生の入学者数が35%となっていることは高く評価できます。

卒業、修了後の進路に関しては、県内企業をはじめとした企業への就職と大学、大学院への進学などの多様な進路が確保されていることがわかりました。

特に、愛媛県内並びに新居浜市内への卒業生の就職状況も良好であることは評価できます。

管理運営においては、学位授与機構認定専攻科審査や国立高専教育国際標準の認定審査に向けた準備を組織的に行っていることは評価できます。また、文科省令和4年度補正予算における「高専スタートアップ教育環境整備事業」に採択され、教育研究環境の充実を図ったことは特に評価できます。

数理データサイエンスAI教育プログラムが定着し、プログラム修了生が順調に増加していることを評価します。

教学マネジメントの観点から、組織的に質保証の取組を継続し、改訂版モデルコアカリキュラム(MCC)に対応した改善をいち早く実施されていることを高く評価します。

専攻科教育に関しては、入試方法も含めた学生の質保証の取組や起業教育の充実などによって新しい方向性が定着していることを評価します。専攻科教育のアウトカムズとして、その研究成果を積極的に対外発表できる環境を構築されることを期待します。

情報教育センターを中心とした高専の情報環境整備・支援を高く評価します。

学生支援に関しては、イベントの開催などの学生生活を充実する取組に期待します。

多様で複雑な学生のメンタルヘルスケア、社会とのつながりが多様化する中での学生の安全な生活の確保など、様々な課題に対して積極的に対処されていることを評価します。

学寮に関しては、学生の生活を安全に継続させるために多様な取組を成されたことに敬意を表します。学寮が安全で充実していることは、入学志願者の増加にも資すると考えますので、今後の継続的な取組に期待します。また、積極的な留学生の学寮への受入れを期待します。

高度技術教育研究センターに関しては、研究推進、地域連携、および高度教育の3本柱を確立され、継続的に成果を上げていることを評価します。地域連携活動も順調に市町への拡がりを見せており、その成果が期待されます。

次世代基盤技術教育のカリキュラム化において、新たに「蓄電池分野」で採択されたことを評価します。高専スタートアップ教育環境整備事業において、アントレプレナーシップの教育環境を立ち上げられたことを高く評価すると共に、今後の成果にも期待しております。

グローバル化に関しては、新居浜高専生を派遣する事業の拡大を進められていることを期待します。また台湾やタイ高専からの学生受入れなどを期待します。

男女共同参画では、入学した女子学生数が大幅に増加している環境をうけて、今後、工学系の教育機関としての積極的な取組が期待されます。

点検評価に関して、教学IR室を設置されたことを評価します。この教学IR室の活動を期待します。

以上まとめますと、地域の要望に応えるための教育・研究の仕組みを着実に構築されており、そのことが地域からも評価されていると考えます。また、中学校卒業時から技術者を目指すという人材の確保とその育成が十分に機能していることから、志願者倍率がコロナ前に回復していることを評価いたします。特に、女子学生の志願者数の増加は今後の工学系の発展の観点からも期待します。

総じて、取組が定着し、今後の発展が十分に期待できると思いますので、よろしく願いいたします。

【鈴木校長】

高橋先生、取りまとめをどうもありがとうございました。

時間が押しているところ申し訳ございませんが、差込資料につきまして、グローバル教育センター長野田からアンケートの依頼がございます。

【野田グローバル教育センター長】

先ほど説明ができなかったのですが、このグローバル人材育成は、高専機構全体の喫緊の課題でございます。本校は、グローバルエンジニア育成事業にこれから応募する予定でございます。それにあたり地域の産業界の人材ニーズに基づいたグローバルエンジニアとはどうあるべきかということで、委員の方々のご意見をいただけたらと思っております。

後日アンケートを作成してお送りいたしますので、ぜひご協力のほどよろしくお願い申し上げます。誠に勝手なお願いですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【鈴木校長】

簡単なアンケートになりますが、後日送らせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

本日紹介させて頂きました起業家育成、次世代技術を担う学生の育成など、時代の推移と共に社会から求められる人材像も進化してまいります。本日の委員の方々は、本校のステークホルダーとして産官学各分野、更に時代のニーズ・シーズの最先端状況を把握されておられます。その中での本当に貴重なご意見を賜りましてありがとうございました。学校運営において、重要なチェックの機会になったと受け取っておりますと共に、本御意見を活かして今後の改革推進に努めていきたいと思っております。

委員の皆様、本日は誠にありがとうございました。

説 明 資 料

- (独) 国立高等専門学校機構 新居浜工業高等専門学校の概要
- 第 18 回運営諮問会議における委員からの主な意見とその対応について
- 教育に関する事項
- 学生支援に関する事項
- 研究・地域連携、及び社会貢献活動に関する事項
- 国際交流関係に関する事項
- 男女共同参画に関する事項
- 点検・評価に関する事項

技術で世界へ
世界へ未来へ

(独) 国立高等専門学校機構 新居浜工業高等専門学校の概要



創立60周年記念植樹 (R5.3.3)

第19回運営諮問会議(令和6年2月1日)
校長 鈴木 康司

令和5年度(第19回)運営諮問会議 1

技術で世界へ
世界へ未来へ

新居浜高専が受審している外部評価

- 1. 新居浜高専運営諮問会議**
(毎年受審 2月頃:地域のステークスホルダー)
東予地区の高等教育機関として新居浜高専の目指すべき姿の提示と意見聴取
- 2. 高等専門学校機関別認証評価**
(R4. 3受審 7年毎:(独)大学改革支援・学位授与機構)
教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況の評価
- 3. 学位授与機構認定専攻科審査(特例適用専攻科レビュー)**
(R6審査予定 5年毎:(独)大学改革支援・学位授与機構)
専攻科生の学位授与(学士)に係る修得単位及び学修成果審査の一部を、高専教員が担える資格認定を受けるための審査
- 4. 国立高専教育国際標準(KIS:KOSEN International Standard)認定**
(R6審査予定、本校初受審 6年毎:(公財)日本工学教育協会)
高専の本科教育の質の向上と、国際的な教育の質保証を国内外に対して認定する制度
- 5. 国立高専機構監事監査**
(R5受審、5年毎:(独)国立高等専門学校機構)
機構監事による本校業務遂行状況の合法性、合理性等を客観的な立場で検討・評価、本校の運営の健全性を高め、社会的信頼を担保

令和5年度(第19回)運営諮問会議 2

技術で世界へ
世界へ未来へ

沿革

昭和37年 高専制度第1期校として設置(機械工学科、電気工学科、工業化学科)
昭和41年 金属工学科を増設
昭和53年 公害教育研究センターを設置
昭和62年 金属工学科を材料工学科に改組
昭和63年 電子制御工学科を増設
平成4年 全国に先駆け専攻科設置(生産工学専攻、電子工学専攻)
平成9年 工業化学科を生物応用化学科に改組
平成11年 公害教育研究センターを高度技術教育研究センターに改組
平成15年 電気工学科を電気情報工学科に改組、情報教育センターを設置
平成16年 独立行政法人国立高等専門学校機構新居浜工業高等専門学校へ移行
生産工学専攻を生産工学専攻及び生物応用化学専攻に改組
平成17年 ものづくり教育支援センターを設置
平成19年 材料工学科から環境材料工学科に改組
平成29年 ものづくり教育支援センターをエンジニアリングデザイン教育センターに改名、保健管理センターを設置
令和2年 グローバル教育センターを設置
令和4年 創立60周年記念講演会(長岡技科大 鎌土学長:本校OB)

1 2校でスタート、現在国立51高専
新居浜高専と奈良高専の2校

令和5年度(第19回)運営諮問会議 3

技術で世界へ
世界へ未来へ

教育理念と基本方針

教育理念
知恵・行動力・信頼

教育の基本方針
学びと体験を通じて、
未来を切り開く知恵と行動力を持った
信頼される技術者を育てる

↓

新居浜高専3つの方針(ポリシー)
入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)
教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
卒業認定の方針(ディプロマ・ポリシー)



教室・会議室等、各所に掲示

令和5年度(第19回)運営諮問会議 4

技術で世界へ
世界へ未来へ

教育目標

本科

- 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。

さらに、**専攻科の教育目標**に次の事項を加える。

- 4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。
- 5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。



教室の掲示

令和5年度(第19回)運営諮問会議 5

技術で世界へ
世界へ未来へ

本科および専攻科の構成

**本科(準学士) : 四国唯一の5学科で構成される高専
多岐にわたる製造業に対応可能な学科編成**

- 機械工学科
- 電気情報工学科 (電気工学コース・情報工学コース)
- 電子制御工学科
- 生物応用化学科 (応用化学コース・生物工学コース)
- 環境材料工学科
(材料関係の学科を持つ高専は全国で4校(仙台、鈴鹿、新居浜、久留米))

専攻科(学士)

- 生産工学専攻
- 生物応用化学専攻
- 電子工学専攻

特例適用認定専攻

令和5年度(第19回)運営諮問会議 6

規 模 令和5年5月現在

学科名	学生定員	在籍学生数	専任教員数等
校 長			1名
機械工学科	200名	210名	9名
電気情報工学科	200名	213名	10名
電子制御工学科	200名	201名	9名
生物応用化学科	200名	217名	9名
環境材料工学科	200名	203名	9名
数理科			12名
一般教養科			12名*
小 計	1,000名	1,044名	71名
専攻科学生		(301名)	(7名)
技術室職員	40名	59名(16名)	12名(1名)
事務部(総務課・学生課)			33名(16名)
合 計	1,040名	1,103名	116名
		(317名)	(24名)

() 内は女性(内数)
*R4採用の外国人教員(英語)1名を含む

令和5年度(第19回)運営諮問会議 7

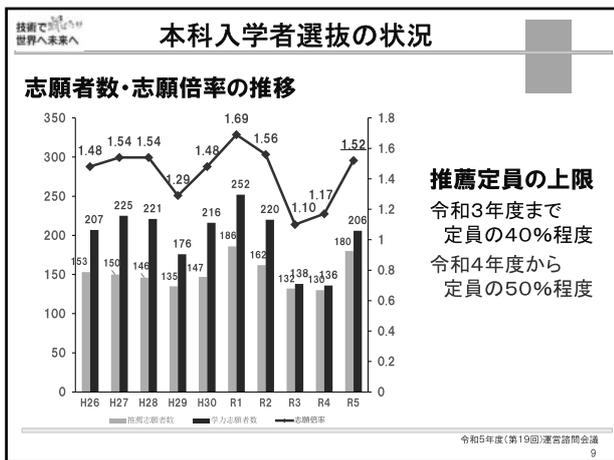
新居浜高専の教員内訳 令和5年5月現在

学科・科	機 械	電 気 情 報	電 子 制 御	生 物 応 用 化 学	環 境 材 料	数 理	一 般	計
博士	8名	10名	9名	9名	9名	11名	6名	62名
技術士	1名	-	-	-	-	-	-	1名
修士	-	-	-	-	-	1名	5名	6名
他	-	-	-	-	-	-	1名	1名
計	9名	10名	9名	9名	9名	12名	12名	70名

在外研究、直近5年間で1名

★教員の退職：令和5年3月31日付 5名
採用：令和5年4月1日付 3名

令和5年度(第19回)運営諮問会議 8



本科入学者選抜の状況

	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
機械工学科	60人	41人(6)	42人	40人(1)	42人	41人(5)
電気情報工学科	70人	43人(13)	45人	42人(4)	33人	40人(4)
電子制御工学科	53人	41人(7)	61人	41人(7)	60人	41人(7)
生物応用化学科	80人	42人(27)	53人	44人(26)	55人	42人(26)
環境材料工学科	41人	42人(21)	33人	42人(14)	30人	42人(13)
計	304人	209人(74)	234人	209人(52)	220人	206人(55)

女子入学者数は過去最多(35%)

注：()は女子で内数を示す。志願者欄は第1志望の学科の志願者を示す。

令和5年度(第19回)運営諮問会議 10

在校生の出身地域別状況 令和5年5月現在

地 域	学生数	割合(%)
新居浜市	423名	38.4
西条市	210名	19.0
四国中央市	139名	12.6
今治市(越智郡含む)	85名	7.7
松山市	61名	5.5
その他愛媛県内	89名	8.1
愛媛県外	87名	7.9
外国人留学生	9名	0.8
計	1103名	100.0

東予地域 77.7%

留学生

カンボジア	タイ	マレーシア	ラオス	計
1名(1名)	2名(1名)	2名(1名)	4名	9名(3名)

() 内は女子学生(内数)

令和5年度(第19回)運営諮問会議 11

愛媛県内の中学生数の推移

中学3年生数の推移

年度	全国	愛媛県	東予4市	本校志願者数	倍率
H30	1,111,742名	11,833名	4,144名	295名	1.48
H31(R1)	1,087,233名	11,285名	3,868名	338名	1.69
R2	1,051,982名	10,813名	3,797名	311名	1.56
R3	1,078,156名	11,178名	3,810名	220名	1.10
R4	1,079,465名	11,233名	3,947名	234名	1.17
R5	1,070,763名	10,938名	3,969名	304名	1.52

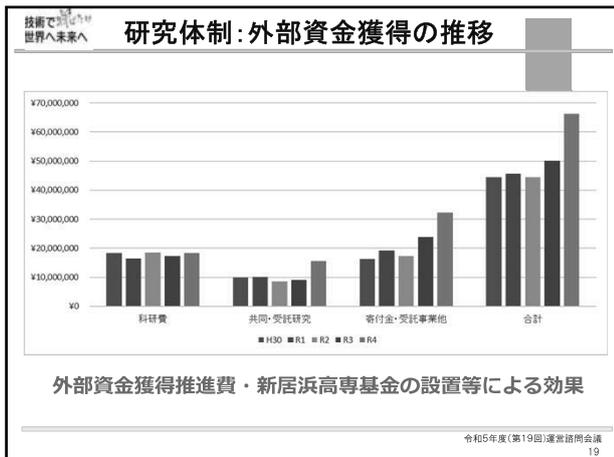
(5年間減少率) (3.7%減) (7.6%減) (4.2%減)

愛媛県の年少(15歳未満)人口の推移と予測

H17	H22	H27	R2	R7	R12	R17
200,270	185,179	170,389	154,420	143,000	130,000	118,000

愛媛県の県立高校(全日制)の入学生定員 (名)
令和5年度： 8,965名

令和5年度(第19回)運営諮問会議 12



技術で世界へ未来へ 自主性を尊重する校風(1)

- マグネットコンテスト**
第28回マグネットコンテストにおいて応募総数1112件の中から優秀賞5作品に選出。
- ロケットコンテスト**
宇宙航空研究開発機構(JAXA)種子島宇宙センターにて開催された第9回種子島ロケットコンテストにおいて準優勝を獲得。
- The 8th STI-Gigaku 2023 Conference**
長岡技術科学大学で開催された国際会議において専攻科の学生が「BEST RESEARCH PRESENTATION AWARD」を受賞。

令和5年度(第19回)運営諮問会議 21

技術で世界へ未来へ 自主性を尊重する校風(2)

挑戦する新居浜高専生

- 「Matching-Hub Hokuriku 2023」において「M-BIP2023」に入選
- 「Japan AT フォーラム 2023 in Tokyo」においてプレゼンテーション優秀賞を受賞
- SMB C日興証券株式会社主催の「高専インカレチャレンジ第三弾」において最優秀賞を受賞
- 奇術部が「令和4年度全国お手玉遊び大会」団体戦競技で優勝＆準優勝

令和5年度(第19回)運営諮問会議 22

技術で世界へ未来へ 国際交流の推進

学術交流協定校

サザンクロス大学(オーストラリア)
重慶工業職業技術学院(中国)
スラバヤ工科大学(インドネシア)
国立聯合大学(台湾)
ポリテクニクSTMI(インドネシア)
永進専門学校(韓国)R6.3締結予定
文藻外語大学(台湾)R6締結予定

学生の海外渡航(長期・短期)

2018年: 22名 → 2023年: 53名

長期留学生受入(3年次編入)

ラオス: 4名・マレーシア: 2名・カンボジア: 1名・タイ高専: 1名

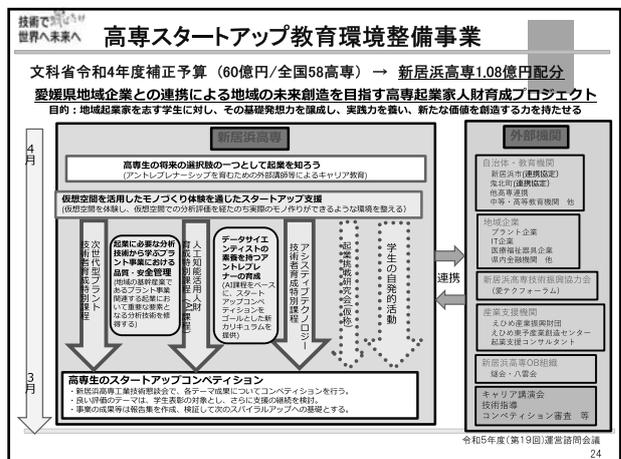
短期留学生受入

2019年度: 3名 → 2023年度: 38名

トピック: 日台国際カンファレンス

R5学術交流協定校との交流として、日台国際カンファレンスを本校が主催高専となり愛媛県松山市で開催した。今回の参加教員・学生は国立聯合大学60名、高専80名、計140名で、本校から学生10名参加、英語で発表・交流した。次年度は台湾で開催(国立聯合大学が主催)予定で、本校は日本側とまとめ校となる。

令和5年度(第19回)運営諮問会議 23



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～

令和5年度(第19回)運営総開会議
25

第18回運営諮問会議における委員からの主な意見とその対応状況について

	委員からの意見	対応状況
1	人材育成について	
	デジタルの人材育成は非常に重要で不可欠な課題なので、引き続き協力をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル、令和3年度認定）において令和4年度に初めて修了者を輩出 ・ 情報セキュリティ人材育成事業（本部推進K-SEC事業）における情報セキュリティ教育を継続、令和4年度より愛媛県等が実施のIT人材育成支援体制への協力を継続
	傾向として、一度は県外に出る学生が多いので、Uターン就職の助けになるようなシステムをより一層、周知して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページのトップ、バナーに卒業生の方へ（Uターン就職支援）のリンクを設けて学内外に周知、今年度も卒業予定者に本科5年担任・専攻科2年担当（各専攻主任）からアナウンスするように周知徹底を図る
2	小・中学校との連携について	
	コロナ禍の前は、中学校現場とのタイアップが活発でしたので、これからコロナ禍が収まり、協力がどんどん為されていくことを期待している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学生向け出前講座37件、市民対象出前講座12講座を要請に応じて実施済 ・ 夏季実技研修会を新居浜近郊の中学校技術教員を対象に再開、技術教科の教材開発に参考となるテーマや本校イベント内容を体験、中学校の状況等を情報共有
	今年度は夏季体験学習が中学3年生限定だったが、令和5年度からは以前の様に、中学3年に限らず幅広い学年を対象に実施して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の夏季体験学習の対象は「高専に興味・関心のある中学生」とし、中学1～3年生の参加者数848名（昨年度比163名増） ・ 愛媛県県民文化会館（別館）での「ものづくりフェスタ」は小学生4年以上対象で136名参加
3	地域連携及び社会貢献について	
	令和5年度から新居浜市で新しい研究支援制度を創設予定なので活用して欲しい。（概要が決まり次第、改めて新居浜市から案内が来る）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新居浜市創造型研究開発支援事業について応募・採択頂き、感謝申し上げます ・ 新居浜市新製品・新技術開発支援事業について応募協力したが、残念ながら不採択（ただ、学校への案内はなく、企業から応募にあたり協力要請あり）

		<ul style="list-style-type: none"> ・技術相談等も随時受付中、本校にも是非事業案内をいただきたい
	<p>今年度、コロナの影響もありながら、新居浜高専の先生方と企業との意見交換会、企業の出張講座、企業体験イベントなどの事業にも参加いただいた。来年度は新たに、ものづくり企業への関心を高めるSNS等を開設するので、今後も学生への周知、参加募集などにご協力をお願いしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業との意見交換会：教員延べ20名、企業延べ20社参加 ・ものづくり企業体験イベント：高専生6名参加 ・ものづくり企業出張講座：企業20社、学生400名（3、4年生）参加 ・高専OB/OGによる情報発信【高専color】：9名参加 ・学園祭(国領祭)で展示ブースによる情報発信への協力 <p>多くの学生にとって有意義な機会提供に感謝申し上げます</p>
	<p>研究推進、地域連携、および高度教育の3本柱を確立され、継続的に成果を上げていることを評価する。今後は、新居浜高専、弓削商船高専、および愛媛大学工学部の3者の連携を強化した取組に発展させることを期待する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高専間連携については、弓削商船高専に限らず中四国高専（第4ブロック）での研究推進事業に継続的に参画 ・昨年度締結した、愛媛県、新居浜高専及び弓削商船高専での包括連携協定も踏まえ、前項の協力を継続 ・愛媛大学との連携では、愛媛大学工学部長裁量経費による研究連携事業、また3月には研究交流会を計画するなど、連携を継続 ・一方で、愛媛大学工学部、新居浜高専、弓削商船高専、の3者の直接的な連携を強化する取組は具体化できておらず、今後も具体的な取組の検討を継続したい
4	国際交流について	
	<p>海外高等教育機関との連携強化やタイ高専からの学生受入れなどを期待する。さらに、新居浜高専生を派遣する事業の拡大に期待する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・台湾国立聯合大学の実習生等12名受入、文藻外語大学の学生2名受入、インドネシアジャカルタSTMI4名の受入（予定）、2019年度3名だった短期交流学生は、18名と増加 ・タイ高専20名の受入を実施、新居浜市国際交流協会と連携し、高専機構本部から高評価 ・協定校重慶工業職業技術学院の教員4名の視察受入、上記各校の引率教員も含めて、学生・教員あわせて50名が来訪 ・協定校の台湾国立聯合大学との合同カンファレンスを愛媛松山で開催、台湾側60名参加

		<ul style="list-style-type: none"> ・学生の海外派遣も50名を超え、受入・派遣の相互交流をさらに増加させるために、今年度中に海外の高等教育機関2校と協定を結ぶ予定
5	男女共同参画について	
	男女共同参画は、今後、益々重要な取組となり、特に工学系の教育機関では積極的な取組を期待する。	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の共同参画に関する啓蒙活動の方向性を整理し、より工学に関する教育機関の特殊性を考えた取り組みを検討 ・男女に限らず様々な価値観などの違う人々との共存を戸惑いなく受け入れられる状況を構築できるよう取組を実施予定
6	その他	
	意欲のある優秀な学生を幅広く集めるよう、入試のシステムを検討してみてもどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・入試のシステムの変更については、令和4年度入試から推薦募集の枠を40%から50%に拡大し、それ以上の具体的な検討はしていない ・しかし、中学生数の減少などから四国地区でも定員割れのために二次募集をせざるを得なかった高専が現れており、入試にも工夫が必要になると考えている
	学寮が安全で充実していることは、入学志願者の増加にも資するので、今後の継続的な取組を期待する。	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策が緩和され行事等が実施でき、学生間のコミュニケーションも円滑になったためか、人間関係のトラブルも減少傾向 ・リーダー研修を通じて、上級生にはいじめやハラスメントに十分な注意を払うように指導、寮生会・指導寮生会・寮関係教職員が良好な関係を構築し、今後も寮の安全と充実に努める

技術で世界へ未来へ

教育に関する事項

教務主事 衣笠 巧

令和5年度(第19回)運営諮問会議 29

技術で世界へ未来へ

本科教育に関する報告内容

今年1年の取り組み

1. 学生に対する教育
2. FD, 授業改善
3. 入試広報

これからの取り組み

1. カリキュラム改革

令和5年度(第19回)運営諮問会議 30

技術で世界へ未来へ

1. 学生に対する教育

■ 新型コロナ5類移行に伴う対応

令和5年5月以降はコロナ禍以前とほぼ同様の対応

- ・ 新型コロナ感染者はインフルエンザ感染者と同じく特別欠席
- ・ 発熱・風邪症状などによる欠席も通常の病欠扱い
- ・ 10月にインフルエンザの学級閉鎖はあったが、新型コロナはなし

■ 機械工学科カリキュラム変更

社会ニーズに合わせて、機械工学をベースとしてAI、IoTなどロボティクスを修得したもののづくり人材の育成を目的としたカリキュラムに変更

令和2年度から、ロボティクスとの関連をより強くした科目を導入

令和5年度から、機械系科目とロボティクス系科目のリンクを強化

- ・ 低学年の機械系実習科目を短縮し、基礎力育成のための演習科目を新設
- ・ メカトロニクスに関連する情報処理・電気系基礎科目を低学年に移行し、基礎から段階的に学習を積み重ねるカリキュラム

令和5年度(第19回)運営諮問会議 31

技術で世界へ未来へ

1. 学生に対する教育

■ 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切に理解・活用する基礎的能力を育成するため、情報教育センターの協力により1年生に「データサイエンス」を新設し、文部科学大臣から認定

身に付けることのできる能力(リテラシーレベル)

- ・ 社会変化や情報技術の発展に伴った最新のセキュリティとモラルの知識を実践を通じて修得することができ、これらを考慮してデータを適切に取り扱うことができる
- ・ 測定装置やセンサーから得られるデータを、専門分野の知見を用いて分析し、適切な評価や考察ができる。また、その活用についての論考ができる

プログラム修了者(令和4年度末に初めて)

5年生 181名(5学科)、4年生 119名(3学科)、3年生 36名(1学科)、1年生 207名(5学科)

- ・ 2年生以上:「情報リテラシー」、各学科の所定科目の修得により認定
- ・ 1年生:「情報リテラシー」、「データサイエンス」の修得により認定

令和5年度(第19回)運営諮問会議 32

技術で世界へ未来へ

2. FD, 授業改善

■ 改訂版MCCへの対応

すべての学生が卒業までに習得すべき最低限の目標水準をモデルコアカリキュラム(MCC)として高専機構が提示(平成29年度)

- ・ コア=知識・技能を中心に特定分野の科目で達成させる目標
例:(数学)変数分離形の微分方程式を解くことができる。
- ・ モデル=特定の科目に限定されず、多様な教育方法で達成させる目標
例:(創造性)多角的な視点から事象を分析し、対応すべき問題を定義できる。課題を踏まえて令和5年度に改訂(改訂版MCC)

これまでの実施において浮上したカリキュラムマネジメントに関する課題

- ・ 社会構造・産業構造の変革に合わせた教育へのニーズ
- ・ 国際的な技術者教育改革の動向を踏まえた内容整理
- ・ 「教学マネジメント指針」における組織的、体系的なカリキュラムマネジメントの要請

令和6年度入学生からの適用に向けて、改訂版MCCの到達目標を達成するための授業科目を精査し、カリキュラム、シラバスの変更の必要性を検討

これを踏まえたカリキュラム改革を令和6年度に実施予定

令和5年度(第19回)運営諮問会議 33

技術で世界へ未来へ

2. FD, 授業改善

■ MCC到達目標の全体構成

MCC(モデル): 創造性・デザイン能力
[MCC(モデル): 創造性・デザイン能力]を包含したディプロマポリシー達成に向けて、専門科目等でPBL、社会実装教育、COO学習、地域連携など問題解決・課題達成を目指す授業設計をおこなう。
※「知識・技能」と組み合わせ、「創造性・デザイン能力」育成を図る際の学習目標、学習成果測定・評価指標を定義する際の指針とする。

MCC(モデル): 基礎的資質・能力
[MCC(モデル): 基礎的資質・能力]を含む各専攻のディプロマポリシー達成に向けた一般科目、専門科目の授業設計をおこなう際に、MCC(コア)の「知識・技能」と組み合わせ学習目標、学習成果測定・評価指標を定義する際の指針とする。

MCC(コア): 知識・技能
一般科目、専門科目との対応関係が比較的設計しやすい「知識・技能」を中心とした学習内容を規定している。

MCC(モデル): 基礎的資質・能力
[MCC(モデル): 基礎的資質・能力]を含む各専攻のディプロマポリシー達成に向けた一般科目、専門科目の授業設計をおこなう際に、MCC(コア)の「知識・技能」と組み合わせ学習目標、学習成果測定・評価指標を定義する際の指針とする。

令和5年度(第19回)運営諮問会議 34

技術で世界へ未来へ 2. FD, 授業改善

■ 質保証重点6項目

KOSEN 質保証重点6項目について

- ① ボーディング教育の実施**
 - Step1) 学生自身の認知を深め実践している
 - Step2) ボーディングを活用し、実習を実施している
 - Step3) 学生が認知能力を身に付けている
- ② 実験スキル計測の実施**
 - Step1) 実験においてそのスキルの設定をしている
 - Step2) 実験に際して、スキルを計測している
 - Step3) 学生が各学科で必要な実験スキルを身に付けている
- ③ 分野横断的能力的培养の実施**
 - Step1) 分野横断的能力的培养を推進し、取り組みを行っている
 - Step2) 分野横断的能力的培养が定着している
 - Step3) 学生が分野横断的スキルを身に付けている
- ④ 授業マネジメント推進事業にて実施**
- ⑤ ビデオボック有償の実施**
 - Step1) ビデオボックを育成する体制がある
 - Step2) ビデオボックを貸出している
 - Step3) 学生がビデオボックを活用している
- ⑥ 学生自身の取り組みの普及の実施**
 - Step1) 学生自身の取り組みを共有している
 - Step2) 教職員で安全に学生情報を共有する仕組みがある (FD)

学校レベル
学科レベル
授業レベル

学生が自ら成長できる環境の整備および教育の実践

令和5年度(第19回)運営諮問会議 35

技術で世界へ未来へ 2. FD, 授業改善

■ 実験スキル計測の実施

実験実習で獲得できるスキルを実験テーマごとに明示し、スキルが身についたかどうかを計測、その結果を学生にフィードバックすることで、しっかりと実験スキルを身につけた学生を育成することを目的

実験スキル評価シート

項目	スキル	到達目標	レベル3相当		レベル2相当			
			3A	3B	2A	2B	C	D
計画と実施	○○	○○ができる	自ら考え て○○が できる	教員の若 干の助言 を受けて 自ら考え て○○が できる	記述され た方法に 従って ○○がで きる	教員の若 干の助言 を受けて ○○がで きる	教員の詳 細な助言 を受けな い	教員の助 言を受け て○○が できない
機器の操作	△△	△△ができる						
結果と考察	□□	□□ができる						

教員会で事例報告(3学科)

- 実験書に身につけるべき実験スキルを具体的に明示し、それに基づいて自己評価させることで学生が実験スキルを意識
- 実験スキルを習得していることが確認できるまで実技試験の実施

令和5年度(第19回)運営諮問会議 36

技術で世界へ未来へ 3. 入試広報

■ 入試広報イベント

エンジニアリングデザイン教育センターによる企画・実施
参加者数はほぼコロナ禍以前に回復

夏季体験学習 8月5日(土)、6日(日)

- ・ 中学1～3年生対象の実験体験、保護者向け学校説明
- ・ 参加者 延べ848名 (R1:836名、R4:685名) 補助学生160名

ものづくりフェスタ in 松山 8月26日(土)、27日(日)

- ・ 小学4～中学3年生のものづくり講座、保護者向け学校説明
- ・ 参加者 延べ136名 (R1:135名、R4:118名) 補助学生18名

学校見学会(オープンキャンパス) 9月23日(土)

- ・ 中学1～3年生対象の全学科または学科別見学(選択制)
- ・ 参加者 延べ259名 (R1:276名、R4:222名) 補助学生数79名

国領祭入試情報コーナー 11月4日(土)、5日(日)

- ・ 入場制限なしの受験相談、入試問題解説、学科別紹介
- ・ 参加者 延べ478名 (R1:459名、R4:264名)

令和5年度(第19回)運営諮問会議 37

技術で世界へ未来へ 本科教育のこれからの取り組み

■ カリキュラム改革

ディプロマポリシーを達成した学生の卒業を保証

現在のカリキュラムでは、ディプロマポリシーを達成した学生の卒業を保証しているとは言えない

- ・ 必修科目は、主に低学年の数学、物理、化学、英語および専門分野の実験実習科目、卒業研究などのみ
- ・ 専門分野の講義科目のほとんどは必修科目ではあるが、選択必修(ある科目群から数科目を必修得)や選択科目(修得条件なし)

適切な必修科目の設定により、ディプロマポリシーを達成した学生の卒業を保証する必要がある

教員定員減に対応した授業の工夫

教員定員が約10%減少するのに対応して、開講科目の削減、学修単位の増設、大人数授業の実施などの工夫が必要

令和5年度(第19回)運営諮問会議 38

技術で世界へ未来へ

技術で習ばだけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～

令和5年度(第19回)運営諮問会議 39

技術で世界へ未来へ

教育に関する事項

■ 専攻科教育に関する取り組み

専攻科長 加藤 克巳

令和5年度(第19回)運営諮問会議 40

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ

専攻科教育に関する取り組み

- R6年度入試について
 - ◇ 推薦入試：3専攻とも定員確保
 - ◇ 二次学力入試：生物応用化学専攻のみ実施
(一次学力入試までの状況を鑑み)
- 起業教育について
 - ◇ 専攻科1年生（全専攻共通）
「ベンチャービジネス概論」「起業工学」にて、
地域の実務経験者、起業経験者による講話
(高専スタートアップ教育環境整備事業の
一環として実施)

令和5年度(第19回)運営諮問会議 41

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ

専攻科教育に関する取り組み

- シニア・インターンシップについて
 - ◇ 件数、実施状況とも、コロナ前の状況に回復
 - ◇ 全専攻合同の報告会を実施
- 国際会議への参加
 - ◇ 日台カンファレンスにて、専攻科生5名参加
- 学生の表彰
 - ◇ Best Research Presentation Award:
生産工学専攻2年生
 - ◇ 高専機構理事長特別表彰：電子工学専攻2年生

令和5年度(第19回)運営諮問会議 42

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ

専攻科教育に関する今後の取り組み

- 対外発表の促進
 - ◇ 国際会議発表を含めた、対外発表の促進
- カリキュラムの検討
 - ◇ 教員定員減に対応した授業等の業務改善

令和5年度(第19回)運営諮問会議 43

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ



令和5年度(第19回)運営諮問会議 44

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ

情報教育センター

令和5年度活動報告

情報教育センター長 栗原 義武

令和5年度(第19回)運営諮問会議 45

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ

令和5年度の取り組み

- 情報教育環境の整備による教育支援
 - ・ 高専高度化推進経費事業
 - 教務委員会(電子出席簿)と協力
 - 学内無線LAN整備の充実化
 - ・ 情報教育センター棟改修工事
 - 第1演習室、第2演習室
 - 工事期間中：第1会議室で代替利用
 - ・ 学内Web・メールホスティングサービスの更新

令和5年度(第19回)運営諮問会議 46

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

令和5年度の取り組み

- 情報セキュリティ教育関係
 - ・ COMPASS5.0 サマースクール2023
 - 本校学生参加
 - ・ サテライト SEC道後 2023 (6/29,30)
 - 視聴覚教室で本校学生・教職員参加
 - ・ サテライト SEC道後 2024 (3月予定)
 - ・ 数理・データサイエンス・AI教育プログラム活動の教育バックに参加
 - ・ 日本ディープラーニング協会G検定
 - 教員1名、学生6名受験支援予定
- 継続支援活動
 - ・ 1年生全学科「情報リテラシー」「データサイエンス」実施

令和5年度(第19回)運営諮問会議 47

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～

令和5年度(第19回)運営諮問会議 48

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

学生支援に関する事項

学生主事・保健管理センター長 志賀 信哉
寮務主事 野田 善弘

令和5年度(第19回)運営諮問会議 49

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

学校行事

(1) 学外研修

日程：2023(R5)年5月

2年生 倉敷美観地区
4年機械工学科 マルホ発條工業㈱ 他

令和5年度(第19回)運営諮問会議 50

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

学校行事

(2) 四国地区高専体育大会

日程：2023(R5)年7月
→ コロナ禍以前と同様の形態で開催

バレーボール
水泳

【全国大会出場】
陸上部、男子バレーボール部、ソフトテニス部、卓球部、サッカー部
バスケットボール部、柔道部、水泳部、テニス部、バドミントン部

令和5年度(第19回)運営諮問会議 51

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

学校行事

(3) 国領祭

日程：2023(R5)年11月4日(土)、5日(日)
→ 入場規制撤廃

各種出店
野外ステージ
学科展示
美術部展示

令和5年度(第19回)運営諮問会議 52

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

保健管理センター

電子出席簿の導入

1. 授業出席状況の早期把握
2. 学生の様子の気づきの共有
 - いつもと違った学生の様子の気づきを入力
 - 全教員がリアルタイムに情報共有できる
 - 組織的な学生対応が可能

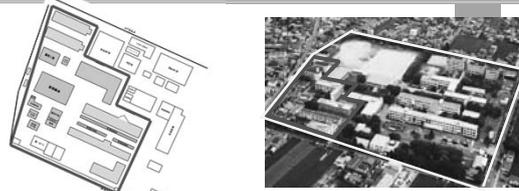


全教職員で学生を見守る環境が整った

令和5年度(第19回)運営諮問会議 59

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

新居浜高専 学生寮



	本科					専攻科		合計	(令和6年1月1日現在)
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年		
寮生数	49	56	58	49	41	3	5	261	
女子寮生数	16	11	15	16	9	0	0	67	※女子寮生数は内数

寮生数全体は昨年より減少、昨年度282→今年度261
1年生男子の入寮が減少

令和5年度(第19回)運営諮問会議 60

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

学寮に関する今年度の取組

◆ポストコロナへ(1)

- ・ 食堂の食事時間制限の撤廃
 - パーティションを段階的に撤去
 - 全寮生を収容可能な席数確保
 - 次年度の昼休み時間短縮への対応
- ・ 授業時間帯(8:50-14:30)の全寮棟の施錠
 - 昨年度は「密」を避けるため昼休みに寮自室に戻ることを許可していたが、5類移行を機に変更
 - 昼休みに帰寮して寝過ごし授業に出席できないことを防ぐ
 - 防犯・節電にも効果あり



令和5年度(第19回)運営諮問会議 61

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

学寮に関する今年度の取組

◆ポストコロナへ(2)

- ・ 海外提携校からの短期留学生8名を受入
 - 寮に混住(写真・左)することで学生のグローバルマインドを育成
- ・ 対面・集合形式での行事等実施
 - 夏のリーダー研修(写真・右)を4年ぶりに学外で実施するなど、集会・保護者総会などすべての行事を対面で実施



令和5年度(第19回)運営諮問会議 62

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

学寮に関するこれからの取組

- ◆ 学寮の改修
 - ・ 虫雪寮の改修決定…詳細を詰めていく
 - ・ 学寮食堂の改修計画をさらに練り上げていく
- ◆ 外泊欠食のICT化、システムの導入を検討
 - ・ 事務作業の負担軽減へ 問題は予算
- ◆ 宿日直業務の外部委託拡大
 - ・ 昨年に比べ教員の宿直業務負担は増大 これも問題は予算

令和5年度(第19回)運営諮問会議 63

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～

令和5年度(第19回)運営諮問会議 64

技術で世界へ未来へ

研究・地域連携、及び 社会貢献活動に関する事項

高度技術教育研究センター長	香川 福有
研究推進部門長	松友 真哉
地域連携部門長	吉川 貴士
高度教育部門長	堤 主計
副校長(改革担当)	早瀬 伸樹
エンジニアリングデザイン教育センター長	松田 雄二

令和5年度(第19回)運営諮問会議 65

技術で世界へ未来へ

高度技術教育研究センター エンジニアデザイン教育センター

1. 研究推進活動
2. 地域連携活動
3. 高度教育活動
4. 高専スタートアップ
教育環境整備事業
5. 夏季実技研修会(技術)

令和5年度(第19回)運営諮問会議 66

技術で世界へ未来へ

1. 研究推進活動

- ・愛媛大学工学部との共同研究(連携研究促進経費 採択) 2件
- ・企業との共同研究・受託研究
新規15件+継続6件=21件(新居浜市内 6件)
- ・科研費採択 新規6件+継続12件=18件
- ・新居浜市『創造型研究開発支援事業』採択
『新製品・新技術開発支援事業』応募
- ・高専シーズの広報
Researchmap、新居浜市役所コピーでの展示、新居浜高専工業技術懇談会、新居浜高専研究シーズ集15の発行(200部)、日本リハビリテーション医学会・慢性期医療学会展示など

令和5年度(第19回)運営諮問会議 67

技術で世界へ未来へ

1. 研究推進活動

教員・学生の研究表彰等

- ・令和4年度学生表彰 理事長特別表彰の受賞・学生
- ・公益社団法人日本セラミックス協会「Journal of the Ceramic Society of Japan」にて優秀論文賞受賞・教員
- ・令和5年度 第25回軽金属学会功労賞の受賞・名誉教授
- ・令和5年度春の叙勲受賞(瑞宝小綬章)・名誉教授
- ・Japan ATフォーラム2023 in Tokyoにて優秀賞受賞・学生

令和5年度(第19回)運営諮問会議 68

技術で世界へ未来へ

2. 地域連携活動

- ・地域との連携協定
愛媛県、新居浜市、宇和島市、鬼北町
伊予銀行、愛媛大学、西条高校、東予産業創造センター
- ・「愛媛県東予地方局ものづくり人材確保事業」への協力
企業との意見交換会：教員延べ 20 名、企業延べ 20 社が参加
ものづくり企業体験イベント：高専生6名参加
ものづくり企業出張講座：企業20社、学生400名(3, 4年生)
高専OB/OGによる情報発信【高専color】：9名参加
- ・鬼北町 バイオ×AI分野での連携
- ・新居浜市 共同研究「七福芋の機能性調査」
- ・新居浜市IoT推進ラボへの協力
ラボフォーラム技術シーズ展示会への出展 1件
- ・愛媛県デジタル人材育成推進会議への参画
- ・愛媛県との連携 現行5テーマと新規3件を提案
- ・西条高校SSHへの協力 教員4名
- ・市民講座 6件

令和5年度(第19回)運営諮問会議 69

技術で世界へ未来へ

3. 高度教育活動

- ・「高専生と企業のアイデア会議」学生29名、企業5社
- ・出前講座 17件
- ・日本弁理士会学生向け知的財産セミナー
3年全クラスにて実施
- ・日本高専学会第29回年会講演会を本校で開催
本校発表者 教職員20名、学生12名
- ・令和5年度宇宙航空科学技術推進委託費
宇宙人材育成プログラム【専門人材育成】に採択
- ・第245回介護工学研究会を本校にて開催

令和5年度(第19回)運営諮問会議 70

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

3. 高度教育活動

- COMPASS5.0蓄電池分野の拠点校に採択

COMPASS5.0:「次世代基盤技術教育のカリキュラム化」
既存5分野に更に蓄電池分野が令和5年度より追加され
拠点校となった

AI・数値データサイエンス分野	旭川高専・富山高専
サイバーセキュリティ分野	水更津高専・高知高専
ロボット分野	東京高専・北九州高専
IoT分野	仙台高専・広島商船高専
半導体分野	熊本高専・佐世保高専 (R4年度)

R5年度で一旦終了

NEW! 蓄電池分野: 新居浜高専、石川高専 (R5~8年度)

GEAR5.0/COMPASS5.0
高専教育の発展を促す

拠点校としての役割

- 教育パッケージの構築 (人材育成モデルの構築・実践)
- 産業界・団体・自治体・大学等との関係構築
- 全国高専における教育体制構築のためのカリキュラムマネジメントの支援など

令和5年度(第19回)運営諮問会議 71

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

4. 高専スタートアップ教育環境整備事業 (アントレプレナーシップ教育環境立ち上げ)

愛媛県地域企業との連携による地域の未来創造を目指す
高専起業家財育成プロジェクト(108,000千円)

1. 高専生が将来の選択肢の一つとして起業を知ろう

(1) 特別講演として実施

- 村尾一寿氏 (株式会社 西条環境分析センター 本校OB)
- 白川剛朗氏 (株式会社 ミライト 本校OB)
- 宮崎翼氏 (合同会社 NoCodeCamp 本校OB)
- 丑野雅紀氏 (弁護士)

(2) 授業の一環として実施

- 経営工学 (本科5年)
- 起業工学 (専攻科1年)
- ベンチャービジネス概論 (専攻科1年)

令和5年度(第19回)運営諮問会議 72

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

4. 高専スタートアップ教育環境整備事業 (アントレプレナーシップ教育環境立ち上げ)

2. 起業家工房の設置(3月5日の工業技術懇談会にて公開予定)

- 仮想空間を活用したモノづくり体験を通じたスタートアップ支援 (3Dプリンター、3Dスキャナー、レーザーマーカ)
- データサイエンティストの素養を持つアントレプレナーの育成 (ワークステーション)
- 起業に必要な分析技術から学ぶプラント事業における品質・安全管理 (ガスクロマトグラフ質量分析計)

3. 起業挑戦研究会の設置

- 6件のテーマを採択 (スタートアップコンペティションで報告予定)

4. 高専生のスタートアップコンペティション

- 3月5日に本校で開催予定

令和5年度(第19回)運営諮問会議 73

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

夏季実技研修会(技術) 8月18日 3年ぶり開催



目的: 中学校教員との交流、情報共有、教材開発等
中学校技術科教員: 8名、本校教員: 3名、学生: 4名



今回のテーマ
「消失模倣型鋳造によるネームプレートの作製」
「サイクロン式卓上クリーナーの製作」
「エコラン紹介」

エンジニアリングデザイン教育センター

令和5年度(第19回)運営諮問会議 74

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
~新居浜高専~

令和5年度(第19回)運営諮問会議 75

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

国際交流に関する事項

グローバル教育センター長 野田 善弘

令和5年度(第19回)運営諮問会議 76

技術で世界へ未来へ 数値目標達成状況

新居浜高専の国際交流に関する数値目標
※令和2年度の運営諮問会議の提言を受けて令和3年度に設定

① TOEICスコア 400点 → ×
※5年卒業時平均

② 派遣人数 50名 → ○

③ 受入人数 10名 → ○
※短期交流学生の受入数

令和5年度(第19回)運営諮問会議 77

技術で世界へ未来へ ① TOEICスコアに関して-実績と展望

TOEICスコアの目標値は達成ならず

【目標達成へ向けて】
低学年からの英語コミュニケーション能力の養成

5年生平均点の推移
令和3年 296点
令和4年 339点
令和5年 354点
順調に伸びつつある

- ・初年次国際理解教育
リベラルアーツ演習
- ・国際交流(派遣・受入)の促進
海外語学研修の単位化
オンライン英会話の単位化
国際交流ボランティアの養成
- ・外国人教師の活用

令和5年度(第19回)運営諮問会議 78

技術で世界へ未来へ ② 海外派遣に関して-R5実績

53名の学生が海外へ：過去最多

内訳

台湾国立聯合大学専門研修(1か月)	4名
韓国永進専門大学校専門研修(1か月)	2名
シンガポール科学技術専門研修(1か月)	1名
ドイツ語学研修(1か月)	3名
台湾文藻外語大学語学研修(2週間)	5名
韓国大邱慶北英語村語学研修(2週間)	4名
台湾短期研修旅行(6日)	7名
韓国短期研修旅行※機械工学科限定(4日)	12名

その他、インドネシアポリテクSTMIジャカルタ長期留学1名、
学外留学エージェント・団体による海外渡航14名。

令和5年度(第19回)運営諮問会議 79

技術で世界へ未来へ ② 海外派遣に関して-R6に向けて

50名は1000人規模のKOSENの中では少ない！
年間100名派遣を目指して 毎年10%⇒5年で500人

本校の学生が海外に行かない理由：
お金か？ 勇気(メンタル)か？ 興味か？

お金⇒円安、費用の高騰
オーストラリア語学研修は希望者が少なく実施できず、
やむなく希望者は韓国と台湾へ変更
今後の海外研修先は東南アジアを開拓
フィリピン(セブ)・タイ(タイ高専)など

勇気⇒海外の学生を積極的に受入 キャンパス国際化
興味⇒広報活動：研修報告会と国領祭展示
トビタテなど奨学金や機構の支援経費の案内

令和5年度(第19回)運営諮問会議 80

技術で世界へ未来へ ③ 海外大学等受入-R5実績

長期 国費留学生⁽⁸⁾・タイ高専留学生⁽¹⁾ 9名
短期 学生38名/教員12名 ⇒50名 ※2019年は学生3名
他にNUU-NIT合同カンファレンス参加60名

短期受入50名の内訳

▼学生(38名)

台湾国立聯合大学中国語教育実習生(1か月)	6名
台湾国立聯合大学World Youth Volunteer Club(6日)	6名
タイ高専KOSEN KMILメカトロニクス(1か月)	20名
台湾文藻外語大学中国語教育実習生(5か月)	2名
インドネシアポリテクSTMIジャカルタ(6日)	4名予定

▼教員(12名)

国立聯合大学	2名
タイ高専	4名
中国重慶工業職業技術学院	4名
文藻外語大学	1名
ポリテクSTMIジャカルタ	1名予定

重慶工業職業技術学院教員来訪

令和5年度(第19回)運営諮問会議 81

技術で世界へ未来へ ③ 海外大学等受入-R6に向けて

受入体制の整備について「連携」を強化する

◆協定校との連携強化
台湾国立聯合大学⇒中国語教育実習生4名(1か月)受入予定
日台カンファレンス(聯合大学開催)を
日本側窓口としてサポート
台湾文藻外語大学⇒英語教育実習生1名(4か月)受入予定
韓国永進専門大学校・台湾文藻外語大学と3月に協定を結び、受入を促進する予定

◆タイ高専との連携強化
長期留学生2名3年次に受入予定
タイ高専KMIL(1か月研修)20名
を受入予定

2023/7/21-22 NUU-NIT日台国際カンファレンス(伊松山)高専80名、聯合大学60名、140名の盛況な国際会議となりました。来年は台湾で開催(7/14-15)です。

令和5年度(第19回)運営諮問会議 82

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ ③海外大学等受入-R6へ向けて

- ◆本校学生との連携強化
学生国際ボランティア組織（IEC）と連携
- ◆新居浜市との連携強化
日本語教育支援・日本文化体験・ホームステイなど新居浜市国際交流協会の支援
市長表敬訪問・報道機関への紹介
引き続きお願いします
- ◆予算の確保
「さくらサイエンスプログラム」など
※STMIジャカルタの招聘は「さくら」の採択事業
高専機構の事業
グローバルエンジニア育成事業
高専生の海外活動支援事業



IECがタイ高専学生と松山旅行



新居浜市国際交流協会（新居浜カイトクラブ）主催の七夕浴衣パーティー
長期留学生と台湾英語生が参加



タイ高専 石川新居浜市長を表敬訪問

令和5年度(第19回)運営諮問会議 83

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～

令和5年度(第19回)運営諮問会議 84

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

男女共同参画に関する事項

男女共同参画推進室長 白井 みゆき

令和5年度(第19回)運営諮問会議 85

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ 男女共同参画推進室

- ▶ 平成24年10月に発足
- ▶ 推進体制
各科教員7名、総務課長、学生課長（9名中女性1名）
- ▶ 推進目標
学生及び教職員の意識啓発
ワーク・ライフ・バランスのための環境整備
校内のニーズの把握
- ▶ 新居浜市女性活躍推進事業所に再度認定（2022.10～）
全国ダイバーシティネットワーク組織に加盟（2019.10～）

令和5年度(第19回)運営諮問会議 86

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ 男女共同参画推進室

令和5年度のトピック

- ▶ 本科新入生の子学生生の割合が大幅に増加
入学生 209名中 女子学生74名 35.4%
昨年は24%

学生総数（女性内訳）	1103名（317名、29% 全国高専平均 22%）
常勤教員総数（女性内訳）	71名（7名、10% 全国高専平均 12%）
常勤職員総数（女性内訳）	45名（17名、38% 全国高専平均 32%）

高専機構より「女子学生の入学・在学者比率」に係る配分として50万円追加配分

令和5年度(第19回)運営諮問会議 87

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ 男女共同参画推進室

令和5年度のトピック

- ▶ ダイバーシティに関する取り組み・施策も本推進室で担っている
→ 推進室の名称と業務内容変更を検討中
- ▶ 高専GCON2023 に本校からチーム「アイデアメイカーズ」が参加
→ 全国大会進出（1月21日）審査員特別賞を受賞

高専GCON（高専GIRLS SDGs×Technology Contest）
女子学生を中心としたチームで日頃行っている研究や学習がSDGs観点から社会課題に対してどう貢献できるか考える



令和5年度(第19回)運営諮問会議 88

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

男女共同参画推進室

令和5年度の取り組み:
学生・教職員への意識啓発
 ▶ オンデマンド方式（オンライン）で講義を視聴【1月】

環境整備, ニーズ・実態把握
 ▶ 第8回第4ブロック(中四国地区13高専)男女共同参画推進担当者協議会参加【2月】
 ▶ 校長と女性教職員の懇談予定【3月】
 ▶ 女性教員比率向上を図るため、女性優先公募を実施

令和5年度(第19回)運営諮問会議 89

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

男女共同参画推進室

今後の課題
 ▶ 取組みの検証を行いながら、推進活動を継続する
 ▶ ワーク・ライフ・バランスに関する各種制度の周知
 ▶ 研修会等を実施し、男女共同参画意識の浸透を図る
 ▶ 地域との連携体制の維持（「ひめボス（イクボス）宣言」の検討）
 ▶ ニーズを把握し対応策を検討する（育児・介護に関する実情アンケートの検討など）

令和5年度(第19回)運営諮問会議 90

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～

令和5年度(第19回)運営諮問会議 91

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

点検・評価に関する事項

副校長(評価担当) 日野 孝紀

令和5年度(第19回)運営諮問会議 92

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

点検・評価に関する事項(1)

◆ **自己点検・評価（毎年）**

◆ **新居浜工業高等専門学校 自己点検・評価 NEW!!**
 新居浜工業高等専門学校点検・評価実施規則
 新居浜工業高等専門学校点検・評価に関する方針
 ▶ 令和4年度 新居浜高専自己点検・評価実施
 ▶ 令和3年度 新居浜高専自己点検・評価実施
 ▶ 令和2年度 新居浜高専自己点検・評価実施
 ▶ 令和元年度 新居浜高専自己点検・評価実施
 ▶ 平成30年度 新居浜高専自己点検・評価実施
 ▶ 平成29年度 新居浜高専自己点検・評価実施

自己点検・評価表
10基準、21視点、66観点

◆ **高等専門学校機関別認証評価（令和3年受審、7年毎）**

◆ **高等専門学校機関別認証評価（独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構）**
 新居浜高専は、令和3年度に独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施する高等専門学校機関別認証評価において、高専種別定める高等専門学校評価基準を満たしていること評価されました。

【評価結果】
 ▶ 高等専門学校機関別認証評価 評価報告書
 ▶ 認証の事項に係る認証記録 評価報告書
 【自己評価】
 ▶ 高等専門学校機関別認証評価 自己点検書
 ▶ 認証の事項に係る認証記録 自己点検書

自己点検書
8基準、68観点、212確認項目

独立行政法人
大学改革支援・学位授与機構
National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

令和5年度(第19回)運営諮問会議 93

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

点検・評価に関する事項(2)

◆ **監事監査（令和5年受審、5年毎） NEW!!**

オンラインヒアリング：令和5年12月14日(木)
 実地監査：令和5年12月21日(木)

○ **監事監査項目**

- (1) 内部質保証のための取組
- (2) 特色ある取組・優れた取組
- (3) 業務の削減と効率化
- (4) 校長のリーダーシップ
- (5) 各高専における課題・その他特記事項
- (6) 前回監査における指摘事項フォローアップ

令和5年度(第19回)運営諮問会議 94

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

点検・評価に関する事項(3)

◆ 「国立高専教育国際標準(KIS)」(令和6年度、6年毎)
(KIS; KOSEN International Standard)
COMING SOON...

 公益社団法人 日本工学教育協会
Japanese Society for Engineering Education による評価・認定

- 国際的な教育の質保証の枠組み
- 高専の本科教育(5年間)の質保証を国内外に明示

基準 1 学習・教育到達目標の設定と公開
基準 2 教育手段
基準 3 学習・教育到達目標の達成
基準 4 教学マネジメント活動による教育改善

令和5年度(第19回)運営諮問会議 95

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

点検・評価に関する事項(4)

「教学IR室」(令和5年度設置) NEW!!

教学マネジメント「教育目的を達成するために行う管理運営」
学修者本位の教育の質保証の向上を図るため

- 学習目標の具現化
- 授業科目・教育課程の編成・実施
- 学習成果・教育成果の把握・可視化

のPDCAサイクルを回し、教育の高度化・改善活動を促進する。

教学IR「教学マネジメントを支えるInstitutional Research」
IV. 教学マネジメントを支える基盤(FD, SD, 教学IR)

以上の成果

- 情報公表

NEW!!

- ◆推薦選抜口頭試問の地域差のIR分析
- ・推薦選抜受験者が連続と不連続の中学校を比較
- ・口頭試問に地域差がないことが判明

令和5年度(第19回)運営諮問会議 96

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

点検・評価に関する事項(5)

◆ 高等専門学校認定専攻科レビュー(令和6年度、5年毎)
COMING SOON...

 独立行政法人
大学改革支援・学位授与機構
National Institution for Academic Support and Quality Enhancement of Higher Education

特例適用専攻科：学士の学位の授与に係る特例の適用認定を受けた専攻科

- ・専攻科の概要
- ・専攻科と基礎となる学科との連携
- ・学則及び専攻科に関する規則
- ・専攻科授業科目を担当する教員の経歴
- ・専攻科の全授業科目
- ・専攻科授業担当教員の個人調書

令和5年度(第19回)運営諮問会議 97

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～

令和5年度(第19回)運営諮問会議 98

令和5年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和5年11月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>1.1 教育に関する事項</p> <p>(1) 入学者の確保</p> <p>①-1.1 愛媛県小中学校長会の中学校部会長校を校長と教務主事が訪問し、直接、訪問先校長に本校の教育・入試・進路等について概要説明を行う。</p> <p>①-1.2 本校PR関連ページを改良して、小中学生向けのイベント開催情報をウェブサイトに掲載する。ページレイアウトなどを改善し、より分かりやすい内容となるよう検討する。</p> <p>①-1.3 YouTubeに作成した本校広報チャンネルの改善について検討する。</p> <p>①-1.4 毎月1回、メールマガジンを発信する。また、イベント等機会あるごとにメールマガジン配信登録の案内を行う。</p> <p>①-1.5 入学年度別志願者状況を作成し、地域における志願者の推移の分析を行い、今後の広報活動に活かす。</p>	<p>1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>1.1 教育に関する事項</p> <p>(1) 入学者の確保</p> <p>①-1.1 6月に本校の校長・教務主事が愛媛県小中学校長会の理事校を訪問し、校長と進路指導主事に本校の概要を説明した。</p> <p>①-1.2 昨年度に改良した入試情報関連のページを運用し、イベント情報や入試情報を随時更新し、小中学生および保護者などに、より分かりやすい内容に改善した。</p> <p>①-1.3 YouTubeに作成した本校広報チャンネルの改善については、改善に向けて検討中である。</p> <p>①-1.4 メールマガジンについては、入試情報やイベント情報などの案内を毎月1回発信している。また、各種イベント開催時にメールマガジンの登録案内を行った。</p> <p>①-1.5 入学年度別志願者状況においては、広報推進室会議資料作成の参考としたほか、効果的な広報活動(進路説明会の際の手持ち資料)に活用した。</p>
<p>①-2 広報推進室を中心に、入学志願者数が前年度を上回るよう以下の広報活動を効果的に行う。</p> <p>①-2.1 中学校訪問は、進路指導主事、3年生学年主任等を対象に、本校の概要、特色、入試、進路状況、学寮、必要経費等の説明を行うとともに、志願者等の情報収集を行う。また、中学校主催の進路説明会には必ず教員を派遣し、説明用のパワーポイント資料及び中学生向けのリーフレットに沿った説明を行う。</p> <p>①-2.2 地区別学校説明会では、中学校の校長及び進路指導担当教員を招き、説明会ならではの詳細な資料を用いて説明を行い理解を深めてもらうとともに、各校における進路指導の状況等について情報交換を行う。</p> <p>①-2.3 入試広報イベントとしては新型コロナ感染症への対策を考慮した上で、夏季体験学習、学校見学会(オープンキャンパス)、学園祭における入試問題解説コーナー、ミニキャンパスツアー等を実施する。</p> <p>①-2.4 松山地区の入学志願者増を目的とした、入試広報コーディネータによる広報活動を検討する。</p> <p>①-2.5 新居浜市及び他機関と連携して設立した「東予ものづくり祭実行委員会」の委員として教員を派遣し、各種イベントへの学生参加を通して新居浜高専の魅力を発信する。</p>	<p>①-2 新型コロナウイルスの感染対策を徹底したうえで、新型コロナウイルス流行前の規模での対面式の入試広報イベントをすべて実施した。</p> <p>①-2.1 愛媛県全域、香川県西部地区、徳島県西部地区への中学校訪問を行った。また、中学校主催の進路説明会にも例年通り参加し、中学校訪問を兼ねて説明用のパワーポイント資料及び中学生向けのリーフレットに沿った説明を行い、募集要項の配付を行った。</p> <p>①-2.2 地区別学校説明会は松山地区、大洲地区、宇和島地区、東予地区にて校長と教務主事が中学校の校長及び進路指導担当教員を招き、説明会ならではの詳細な資料を用いて説明を行った。また、各校における進路指導の状況等について情報交換を行った。</p> <p>①-2.3 入試広報イベントは、参加者を新型コロナウイルス流行前での規模に戻し、夏季体験学習、ものづくりフェスタin松山、学校見学会(オープンキャンパス)および学園祭における入試問題解説コーナー等を実施した。</p> <p>①-2.4 入試広報コーディネータによる広報活動を行った。</p> <p>①-2.5 「東予ものづくり祭実行委員会」の委員として広報推進室長とイベント担当の教員が参画している。同フェスは11月11日～19日の日程で開催され、パネル展示や化学実験による広報活動を行った。</p>
<p>②-1.1 一昨年度改訂した、中学生向け広報誌「はばたけ！未来へ」について、掲載した漫画の見直しなどに加え、女子の在校生や卒業生の活躍の様子を多く掲載し、広く女子中学生も含めた広報を行う。</p> <p>②-1.2 第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムに参加し、情報の共有・普及を行う。</p>	<p>②-1.1 中学生向け広報誌については、年度末に来年度分の印刷を行うため、現在は内容を吟味し、改訂版の作成作業を行っている。</p> <p>②-1.2 第4ブロックの高専女子フォーラムは開催されなかったため、今年度は不参加である。</p>
<p>②-2.1 新居浜市国際交流協会と協力して地域と一体となった長期留学生支援を行う。</p> <p>②-2.2 英文併記の学校案内やウェブサイトの英語版コンテンツを活用した広報活動を行う。</p> <p>②-2.3 在学中の留学生の活動をウェブサイト等で発信し、本校での学業及び生活の様子を随時紹介する。</p> <p>②-2.4 海外提携校との関係を強化し、さらに新たな提携先を開拓して、短期留学生の受入を促進し、あわせて施設、受入体制を整備を行う。</p>	<p>②-2.1 協会主催行事や日本語指導など地域と協力して支援。</p> <p>②-2.2 英文資料を活用し、広報活動を行っている。</p> <p>②-2.3 留学生の活動をWebサイト等で積極的に紹介している。</p> <p>②-2.4 中国・台湾・インドネシア提携校・タイ高専との関係を強化し、教員・学生の短期受入(計50名)。提携先を今年度中に2校増加。受入施設の設置を申請中。体制も強化。</p>

年度計画	進捗状況
<p>③.1 アドミッションポリシーにふさわしい人材を選抜できるよう本科推薦選抜・学力選抜、編入学選抜、専攻科選抜を適切に実施する。</p> <p>③.2 前年度に実施した本科選抜検査に加えて、編入学選抜、専攻科選抜においてもWeb出願システムを導入する。</p> <p>③.3 今年度から発足した教学IR室と連携して、入学者選抜方法をデータに基づいて検証する準備を行う。</p>	<p>③.1 専攻科は5月13日(土)に推薦選抜、6月12日(月)に学力選抜一次、9月11日(月)に学力選抜二次をアドミッションポリシーに対応した選抜方法で実施した。また8月29日(火)に編入学選抜をアドミッションポリシーに対応した選抜方法で実施した。本科入試については、令和5年1月20日(土)に推薦選抜、2月11日(日)に学力選抜を実施する予定である。</p> <p>③.2 専攻科選抜と編入学選抜においてWeb出願システムを導入した。</p> <p>③.3 教学IR室と連携して、本科推薦選抜における口頭試問の中学校間格差について分析を行い、格差のないことを確認できたので選抜方法の変更は行わなかった。</p>
<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①-1.1 産業構造の急速な変化や技術革新、地域のニーズ等に対応できる技術者を養成するため、学科・専攻のカリキュラム改訂、特別課程の充実、改組等について、引き続き検討する。</p> <p>①-1.2 運営諮問会議を開催し、地域のニーズ等について外部有識者から意見を伺い、本校の運営に活かす。</p> <p>①-1.3 企業の求める人材や高専卒業生の評価等について企業へのアンケート調査を実施し、今年度発足した教学IR室と連携し、教育課程の編成や授業実施方法の改善等の資料とする。</p> <p>①-1.4 今後の高専のあり方について、第4ブロック(中国・四国地区)内の高専と協働して検討を進める。</p>	<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①-1.1 次世代型プラント技術者育成(PE)、アシスティブテクノロジー技術者育成(AT)、人工知能活用技術者育成(AI)の各特別課程を継続的に開講している。今年度の受講者はPE 18名、AT 17名、AI 18名である。</p> <p>また、機械工学科において、社会ニーズに対応するため機械工学をベースとしてロボティクスを修得したものづくり人材の育成を目的としたカリキュラムに今年度から変更した。</p> <p>①-1.2 3月に外部有識者による運営諮問会議を開催し、本校の教育研究活動、地域連携活動等について意見交換を実施する予定であり、そこで得られた意見を今後の学校運営に活用することとしている。</p> <p>①-1.3 企業対象のアンケート方法と内容を教学IR室と連携して学生支援委員会で見直した。今後、アンケート調査を実施して教育課程編成、授業実施方法の改善等の資料として活用することとしている。</p> <p>①-1.4 12月7日、8日開催予定の四国地区教務主事会議において情報交換し、今後の高専のあり方について議論する予定である。</p>
<p>①-2 主に新居浜高専技術振興協会「愛テクフォーラム」関連企業と連携したインターンシップ等の共同教育を実施する。また、地域ニーズや社会ニーズを踏まえた起業教育の充実のため外部人材を活用するほか、地域産業界や大学との共同研究において、各専攻科コースの特色を生かした共同研究の充実を図る。</p>	<p>①-2 インターンシップ参加者全26名うち、「愛テクフォーラム」関連企業におけるインターンシップには8名参加した。また、地域の起業経験者や企業経営者等の外部人材を講師として7名招き、起業教育を行った。さらに、特別研究として、複数機関との連携を含め、企業との共同研究7件(うち県内企業と2件、「愛テクフォーラム」関連企業と1件)、大学との共同研究を10件実施している。</p>
<p>②-1.1 現在の提携校との連携を強化し、また海外教育機関との新たな提携を進め、海外留学やインターンシップなど学生交流を積極的に行う。</p> <p>②-1.2 タイ高専での教育活動を経験した本校の教員を中心に情報収集・共有を行うとともに、他高専の単位認定制度も参考にしながら、本校の実施形態に合った単位認定制度について検討する。</p> <p>②-1.3 海外の教育機関と積極的に提携し、海外に積極的に送り出し、あわせて短期留学生を積極的に受け入れ、かつオンラインも利用して交流を促進しキャンパスの国際化を推進する。</p>	<p>②-1.1 中国・台湾・インドネシアの提携校との連携を強化し、充実した交流ができた。今年度中に海外2校と協定を結ぶ予定。</p> <p>②-1.2 タイ高専1か月研修を実施し、タイ高専に関与した教員と情報共有ができ、検討が進展した。</p> <p>②-1.3 短期留学生の受入数は今年度38名、オンラインでの交流も行った。</p>
<p>②-2.1 本科1年生に開設した「リベラルアーツ演習」を通してグローバルマインドの育成する。</p> <p>②-2.2 「英会話演習」と「海外語学研修」を運用し、国際コミュニケーション力向上に活用する。</p> <p>②-2.3 学生でつくる国際ボランティアクラブと協働して国際交流イベントを企画し、留学経験者や外国人留学生・外国人教師と関わる機会を課外で積極的に設ける。</p>	<p>②-2.1 AL型授業で主体的な学びを行い、十分な成果があった。</p> <p>②-2.2 効果的な運用によって参加する学生が増加した。</p> <p>②-2.3 国際ボランティアクラブが主体的に活動し、留学生を楽しませた。報告会や文化祭で留学経験者と交流する機会を設けた。台湾短期留学生・外国人教師は授業などに積極的に参加している。</p>

年度計画	進捗状況
<p>③-1 連合会主催の、ロボコン、プロコン、デザコンに対して、これまでどおりの学内環境、活動支援を行う。また、高専PRに繋がるコンテスト参加活動等においても、チャレンジプロジェクトをはじめとする後援会への支援依頼や寄付金等の外部資金獲得に努め、活動支援体制を整える。高専大会(地区大会、全国大会)等の体育局的活動において、外部指導員の雇用など、顧問教員の負担軽減に配慮すると同時に、学生が健全な活動を行える環境整備と運用体制を構築する。</p>	<p>③-1 連合会主催の、ロボコン、プロコン、デザコンに対して、これまでどおりの学内環境、活動支援を行った。また、高専PRに繋がるコンテスト参加活動等においても、チャレンジプロジェクトをはじめとする後援会への支援依頼や寄付金等の外部資金獲得に努め、活動支援体制を整えた。高専大会(地区大会、全国大会)等の体育局的活動において、外部指導員の雇用など、顧問教員の負担軽減に配慮すると同時に、学生が健全な活動を行える環境整備と運用体制を構築した。</p>
<p>③-2.1 従来どおり、ローターアクトクラブや奇術部のボランティア活動を支援し、善行活動事例を県や市に報告するとともに学生表彰等にて業績の周知・評価を行う。 ③-2.2 新居浜市危機管理課と連携して、防災士養成講座を受講するとともに防災士の資格を取得することを学生に奨励する。 ③-2.3 環境保全委員会を中心に校内美化ボランティアを募り、参加した学生を学内で表彰する。</p>	<p>③-2.1 従来どおり、ローターアクトクラブや奇術部のボランティア活動を支援し、善行活動事例を県や市に報告するとともに学生表彰等にて業績の周知・評価を行った。 ③-2.2 新居浜市危機管理課と連携して、防災士養成講座が開講されることを機械工学科と環境材料工学科の3～5年生に周知した。 ③-2.3 環境保全委員会を中心に校内美化ボランティアを募って活動している。参加した学生を学内で表彰する予定である。</p>
<p>③-3.1 「トビタテ！留学JAPAN」プログラムの採用実績等について、ウェブサイト等で広報を行う。 ③-3.2 留学する学生に対して、実りある留学となるよう事前指導を行うとともに、留学終了後には学内で報告会を開催する。 ③-3.3 その他、各種奨学金の情報提供を行う。</p>	<p>③-3.1 採択者はHPのトップで紹介し、実績を報告している。 ③-3.2 事前に日常生活用語の学習や注意事項の説明を行い、事後には報告会を実施している。 ③-3.3 外部の奨学金の情報提供はそのつど周知している。</p>
<p>(3)多様かつ優れた教員の確保</p> <p>① 専門科目の教員公募では、「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」を応募資格とする。ただし、一般教養科の教員公募では、原則は「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」ではあるが、分野によっては、「修士の学位」であっても「博士の学位を有する者」と同等程度の業績がある場合もあること、また、多様な人材からの応募が期待できるという側面も考慮し、人事委員会の議を経て、「修士以上の学位を有する者」を応募資格とするケースもありうる。</p> <p>公募要領の「その他」の欄に、「多様な背景を持つ教員組織を目指しており、高等教育機関に勤務経験のある方のみならず、高等学校、民間企業、研究機関等に過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」旨の文書を記載する。</p>	<p>(3)多様かつ優れた教員の確保</p> <p>① 電気情報工学科の公募を実施し、令和6年4月1日付け採用予定である。また、多様な背景を持つ教員組織を目指すため、公募要項のその他欄に「高等学校、民間企業、研究機関等において過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」と記載している。</p>
<p>② 昨年度に引き続き、将来的なクロスアポイントメント制度導入に向けて、近隣の大学、研究機関等の導入事例を調査する。</p>	<p>② 協定書(案)について未着手</p>
<p>③ 昨年度に実施した教員人事構想ワーキングにおいて、子育て中の教員の業務軽減、授業負担軽減などにより働き易さを実現できる方策について委員と意見交換を行った。学事歴の見直しにより、土日に実施していたイベントを平日に行う等の働きかけを関係部署に行う。また、同居支援プログラムに応募する教員がいれば転出後に非常勤講師等で授業をバックアップする。引き続き、働き方改革を推進すべく、年次有給休暇の取得促進、教員の担当授業科目数調査、ライフステージに応じた配慮希望調査等を進めることにより、誰もが働き易い職場環境を整備するための具体的な方策について検討する。</p>	<p>③ 11月開催予定の人事構想WGおよび学校改革推進室において、教員の負担軽減策を検討することとし、推進体制の整備に着手した。一昨年度から授業週を半期あたり一週削減を継続し、授業参観等の土日に実施していたイベントを平日に行う学事歴も運用中である。また、教員1名が4月より同居支援プログラムを利用し転出しているため、非常勤講師等で授業をバックアップしている。さらに、他高専各種委員会も日中の授業の空時間を利用し、会議回数も平常時は月一回で実施する等の工夫を取り入れた。</p>
<p>④ 昨年度、採用した外国人教員に対する具体的支援について、本校でも所属学科及び教員自身の意見を踏まえた上で検討する。</p>	<p>④ 昨年度の公募により一般教養科(英語)に外国人教員に対する具体的な支援について、所属学科長を中心に対応している。今後も外国人教員の採用の可能性について、該当学科の意見を踏まえて人事委員会で検討する。</p>
<p>⑤ 「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、教員の受入・派遣を推進する。また、国立高専間の教員の相互交流を推進する。</p>	<p>⑤ 「高専・両技科大間教員交流制度」では、派遣、受入とも、希望者がいなかったが、今年度は教員高専間交流で1名、国内留学で1名、同居支援プログラムで1名の計3名が本校から他機関に派遣している。</p>

年度計画	進捗状況
⑥ 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)が提供する各種研修の有効活用(個人レベルでの研修への積極的参加の推奨、学校としての新任教員のSPODフォーラムへの参加義務)を実施すると同時に、SPODの講師派遣プログラムを毎年、本校で開催する。	⑥ 今年度は11月24日にSPOD講師派遣プログラムを対面形式で実施する予定である。
⑦ 高専機構の顕彰制度に合わせて、学内顕彰(最優秀教員・優秀教員・最優秀学級担任)も継続して実施する。	⑦ 高専機構の顕彰制度に基づき、最優秀教員を2名(一般部門1名、若手部門1名)選出すると同時に、最優秀に続く優秀教員3名を11月に選出した。なお、最優秀学級担任は3月に選出予定である。
(4)教育の質の向上及び改善 ①-1.1 改訂モデルコアカリキュラムを起点とした教育の質保証の取組について、学生に周知するとともに、学生に対しては自己評価を、教員には授業改善を促す。また、各専門学科のディプロマポリシーに基づく到達目標の設定状況を把握する。 ①-1.2 アクティブラーニングや反転授業、動画教材作成など、主体的な学修を促すための試みを把握、学内で情報共有し、教育方法や教材などの共有化を検討する。 ①-1.3 ラーニングマネジメントシステムとして「Web Class」を活用し、学生の予習・復習や自学自習をサポートする。 ①-1.4 CBT(Computer-Based Testing)や勉強アンケート等により学生の学習到達度・学習時間を把握する。 ①-1.5 科目間調整連絡会を開催し、専門基礎科目と専門科目の担当教員間で密な連携を図り、授業改善に繋げる。	(4)教育の質の向上及び改善 ①-1.1 改訂版MCCへの対応を確認し、必要なシラバス変更について検討している。 年度当初の教務委員会に質保証重点6項目を説明し、教員に周知するとともに教務委員を中心として各項目の分担を決めて取り組んでいる。 ①-1.2 10月の教員会で実験スキル評価について3件の事例発表を行い、各実験実習への導入を依頼した。2月の教員会にて授業改善報告を実施し、意見交換を行う予定にしている。 ①-1.3 「Web Class」に講義資料や課題などをアップし、学生の予習・復習や自学自習をサポートを行っている。 ①-1.4 10月23日に、2年生の数学、物理、化学のCBTを実施した。他の学年についても実施予定である。11月と12月の教員会にて昨年度の数学と物理のCBTの結果、1月に今年度のTOEIC IPの結果を報告する予定である。また、勉強アンケートを2月に実施し、学生の勉強状況を把握する予定である。 ①-1.5 11月に専門基礎科目と専門科目の教員同士で情報交換、課題共有のための科目間調整連絡会を実施する予定である。
② 本校の自己点検・評価表に基づく取り組みを継続して行い、次回の高等専門学校機関別認証評価に向けた教育の質の向上に役立てる。また、教学IR室の活動内容を整備するとともに、教育の質保証の仕組み及びKISについて収集した情報を教員会等で共有しながら教育の質の保証に役立てる。	② 本科推薦入試に関するRQを教学IR室で解析した結果に基づいた教学マネジメントを実施した。また、自己点検・評価表の作成や教育の質保証の仕組み及びKISについて学内に情報共有しながら教育改善の推進に努めている。
③-1.1 地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習(PBL(Project-Based Learning))の実施状況を把握するとともに、現在実施している取組を充実させる。 ③-1.2 特別教育課程においてPBLを実施する事が可能などから、PBLを導入していく。 ③-1.3 STEAM教育の支援および高度化を目指して、関連したテーマをマシンラーニング応用ラボ等に取り入れることを検討する。	③-1.1 各学科や出前授業でPBLの実施を行っていることを把握するとともに、鬼北町・新居浜市と連携して、地域特有の微生物の遺伝子解析などを通じて特産品の開発事業に取り組み始めた。学生による課題解決および出前講座の実施を計画している(10/21,12/1など) ③-1.2 AT特別課程では前期5年生8名が医療現場のニーズを形にし、理学療法士等と作品についてディスカッションした。それらの結果の一部を31回慢性期医療学会、高専学会2023、JAPAN-ATフォーラム2023において展示・口頭発表した。後期から4年生(M/E/D/C/Z科の学生9名)が新たなテーマに取り組んでいる。 ③-1.3 小中学生向けSTEAM教育の一環として、出前講座の中で数学パズル・エネルギー問題など課題解決に用いるための応用教育を実施(12/10,12/22)している。また、学生向けSTEAM教育の一環として、プログラミングを中心とした基礎的な情報教育と段階的に課題解決に情報技術を用いるための応用教育を他高専間と連携した講座で実施している。
③-2.1 企業と連携した教育コンテンツの開発を推進しつつ、実習やインターンシップ等の共同教育を実施し、高専フォーラム等で取組事例を周知する。 ③-2.2 地域企業等と連携した「次世代型プラント技術者育成特別課程(PE課程)」において、現役プラント技術者による最前線の講義と実習を行うとともに、企業現場での実習(インターンシップ)を行うなど、共同教育を実施する。	③-2.1 バッテリー(蓄電池)教育コンテンツの開発に向け産業界と連携し、モデル教材を開発している。 スタートアップ関連の講義を企業と連携して、実施した。PE課程において、簡易な3次元配管CADの実習など、新たな教育コンテンツを導入した。また、地域と連携し安全教育を実施した。 ③-2.2 計画通り講義と実習を行うことができた。企業での現場実習においては、地元企業と連携して4年生と5年生をそれぞれ実施した。

年度計画	進捗状況
<p>③-3 情報セキュリティ教育について、SEC道後のサテライト会場の依頼があれば、教員と学生の参加により新居浜高専として協力する。K-SECの活動の継続、警察庁との連携により協力を得て、新居浜高専において情報教育を実施する。</p>	<p>③-3 SEC道後 2023 の実施にあたり、新居浜高専視聴覚教室において、サテライト会場として協力し、6月29日(木)と6月30日(金)の両日、本校の学生と教職員が無料で視聴することができた。警察庁との連携については、今後、日程等について調整予定である。</p>
<p>④ ・技術科学大学との機器相互利用プログラムの活用状況を把握し、技術科学大学と教育研究分野で有機的な連携を図る。 ・技術科学大学との共同研究助成、共同研究の状況の現状を把握し、更なる共同研究の推進を図る。 ・両技術科学大学の教育・研究に関する情報を収集し、適宜学生や教職員へ周知・展開する。</p>	<p>④ 高専-長岡技科大 共同研究助成に3件が採択され、共同研究が実施されている。</p>
<p>(5)学生支援・生活支援等</p> <p>①.1 配慮を必要とする学生に対して、従来どおり、配慮願を、本人、保護者、専門員、特別支援教育推進室メンバーにより作成する。配慮願を基に、全教員・該当の非常勤講師に配慮項目を通知し、各学科主任からも改めて周知を依頼する。同時に、当該学生が安心して就学できるよう、教員研修を開催する。さらに発達障害グレーゾーンも含めたインクルーシブ教育のあり方を検討する。</p> <p>①.2 学生相談は、従来どおりの外部委託によるスクールカウンセラー等の人員を確保し、平日毎日の相談に対応できる体制を維持・継続する。サステナブル(持続可能)な学生どうしが支えあうピアサポート体制のさらなる充実に努める。学級担任に対して、年度当初に学生との個別面談を実施させる。</p> <p>①.3 保健室の看護師も常勤1名、非常勤1名の常時2名体制を継続し、学生相談の窓口となる連携強化に努める。</p> <p>①.4 メンタルヘルス教育推進室が企画する教職員や学生対象の研修を継続して開催する。</p> <p>①.5 いじめ防止対策として学生主事講話やいじめアンケートを実施する際、「いじめの定義」を学生に説明し、教職員にいじめ防止研修を行う。</p>	<p>(5)学生支援・生活支援等</p> <p>①.1 配慮を必要とする学生に対して、従来どおり、配慮願を、本人、保護者、専門員、特別支援教育推進室メンバーにより作成した。配慮願を基に、全教員・該当の非常勤講師に配慮項目を通知し、各学科主任からも改めて周知を依頼した。同時に、当該学生が安心して就学できるよう、教員研修を開催する。さらに発達障害グレーゾーンも含めたインクルーシブ教育のあり方を検討する予定である。</p> <p>①.2 学生相談は、従来どおりの外部委託によるスクールカウンセラー等の人員を確保し、平日毎日の相談に対応できる体制を維持・継続している。サステナブル(持続可能)な学生どうしが支えあうピアサポート体制のさらなる充実に努めている。学級担任に対して、年度当初に学生との個別面談を実施させた。</p> <p>①.3 保健室の看護師も常勤1名、非常勤1名の常時2名体制を継続し、学生相談の窓口となる連携強化に努めている。</p> <p>①.4 メンタルヘルス教育推進室が企画する教職員や学生対象の研修を継続して開催する。</p> <p>①.5 いじめ防止対策として学生主事講話やいじめアンケートを実施する際、「いじめの定義」を学生に説明し、教職員にいじめ防止研修を行う予定である。</p>
<p>② 奨学金制度について、全学生に公平な情報提供と個人の状況に応じた申請を行えるよう、学内掲示と担任を通じて周知を行うとともに、WebClassにも情報を掲載して周知を徹底する。特に担任は、奨学金制度のPR、学生個人の経済的状況把握、学生と各奨学金制度へのマッチングを図る。</p>	<p>② 奨学金制度について、全学生に公平な情報提供と個人の状況に応じた申請を行えるよう、学内掲示と担任を通じて周知を行うとともに、WebClassにも情報を掲載して周知を徹底している。担任は奨学金制度のPRに努めているが、学生個人の経済的修学状況を把握することや各奨学金制度へのマッチングを図ることは困難な状況である。</p>
<p>③.1 新5年生・専攻科2年生に対する就活情報を早期に収集し活用できるよう、キャリアプラザにて情報収集の場を開設する。キャリアプラザは、全学生が利用可能であり、低学年から就職先や企業が求める高専生像などを確認することができる場として活用する。また、企業へのアンケート、卒業生へのアンケート等を分析のうえ情報共有し、学内でのキャリア教育の情報源とする。さらに、キャリアプラザの維持・管理と情報窓口を担当する専任職員(外部委託等)の配置を検討する。</p> <p>③.2 オンライン企業説明会の資料をWebClassに掲載し全学生に公開し、本科1年生から将来の就労を意識させる取組を行う。</p>	<p>③.1 新5年生・専攻科2年生に対する就活情報を早期に収集し活用できるよう、キャリアプラザにて情報収集の場を開設している。キャリアプラザは、全学生が利用可能であり、低学年から就職先や企業が求める高専生像などを確認することができる場として活用している。また、企業へのアンケート、卒業生へのアンケート等を分析のうえ情報共有し、学内でのキャリア教育の情報源としている。さらに、キャリアプラザの維持・管理と情報窓口を担当する専任職員を配置している。</p> <p>③.2 オンライン企業説明会の資料をWebClassに掲載し全学生に公開し、本科1年生から将来の就労を意識させる取組を行った。</p>
<p>①.1 教員の年間業績報告書を作成し、ウェブサイトで公開することを継続する一方で、Researchmapへの統合も検討する。</p> <p>①.2 高度技術教育研究センターのウェブサイトや本校主催の工業技術懇談会で「教員研究テーマ紹介」や「最新の取り組み」についての情報を発信する。</p> <p>①.3 Researchmapの情報の更新を促す。国立高専研究情報ポータルサイト内「研究・技術シーズ」の全教員登録と最新情報への更新を促す。</p> <p>①.4 2023年度版新居浜高専教員シーズ集を作成し、ウェブサイトで公開する。</p>	<p>①.1 教員の年間業績報告書を作成しウェブサイト公開した。Researchmapから年間業績報告書を自動作成できるシステムの構築も完了し運用を始めた。</p> <p>①.2 新居浜市ロビーにて、教員の研究テーマの提示などの広報をした。</p> <p>①.3 Researchmapの情報の更新を促し、国立高専研究情報ポータルサイト内「研究・技術シーズ」の更新を行った。</p> <p>①.4 2023年度版新居浜高専教員シーズ集(Vol.15)を作成し、ウェブサイトで公開した。また、社会からのニーズが高く、ウェブ版に加え印刷・発刊し、関係企業等への配布を行った。</p>

年度計画	進捗状況
<p>②.1 高専リサーチアドミニストレータ(KRA)や地方公共団体の関係者から情報収集を行い、共同研究・受託研究の受入れを促進する。</p> <p>②.2 マッチングイベント(オンライン含む)への出展を積極的に推進し、社会へ情報発信するとともに知的財産化にも努めるように促す。</p>	<p>②.1 愛媛県東予地方局との連携事業等に協力し、研究や学生への就職支援など、地域との連携を強化できた。</p> <p>②.2 マッチングイベント(オンライン含む)への出展は行えていないが、各種情報収集、PR活動の成果として、着実に共同研究等が実施できている。</p>
<p>③-1.1 情報発信力の強化のために、YouTubeに作成した本校広報チャンネルの改善について検討する。</p> <p>③-1.2 画像や文字による情報発信に加え、動画コンテンツの作成及び内容の検討を行う。</p>	<p>③-1.1 YouTubeに作成した本校広報チャンネルの改善については、改善に向けて検討中である。【再掲】1. 1(1)①-1.3</p> <p>③-1.2 昨年開設したWebページを改装し、学校紹介ページとして活用している。また、新規の動画なども多数掲載している。</p>
<p>③-2 各種イベントの開催情報、地域連携の取組、教職員及び学生の特徴ある教育研究活動等については、ウェブサイトで公開するとともに、積極的に報道機関へ情報発信を引き続き行う。また、地域の地上波テレビ局でのCM放映や情報サイト、情報誌等へも引き続き情報発信を行う。報道された内容等については機構本部へその都度報告する。</p>	<p>③-2 ウェブサイトにおいて各種イベントの開催情報、地域連携の取組、教職員及び学生の特徴ある教育研究活動等について適時公開している。また、報道機関への情報発信も行い、新聞等のメディアで掲載されている。また、昨年度、広く本校の名称を認知してもらうために実施した地上波テレビでのCM放送について、中学校から得た情報から今年度は放送時期を見直して実施している。また、他にも情報サイト、情報誌等へも情報発信を行っており、報道された内容等については機構本部へその都度報告を行っている。</p>
<p>1.2 社会連携に関する事項</p> <p>①.1 教員の年間業績報告書を作成し、ウェブサイトで公開することを継続する一方で、Researchmapへの統合も検討する。</p> <p>①.2 高度技術教育研究センターのウェブサイトや本校主催の工業技術懇談会で「教員研究テーマ紹介」や「最新の取り組み」についての情報を発信する。</p> <p>①.3 Researchmapの情報の更新を促す。国立高専研究情報ポータルサイト内「研究・技術シーズ」の全教員登録と最新情報への更新を促す。</p> <p>①.4 2023年度版新居浜高専教員シーズ集を作成し、ウェブサイトで公開する。</p>	<p>1.2 社会連携に関する事項</p> <p>①.1 教員の年間業績報告書を作成しウェブサイトで公開した。Researchmapから年間業績報告書を自動作成できるシステムの構築も完了し運用を始めた。</p> <p>①.2 新居浜市ロビー展にて、教員の研究テーマの提示などの広報をした。</p> <p>①.3 Researchmapの情報の更新を促し、国立高専研究情報ポータルサイト内「研究・技術シーズ」の更新を行った。</p> <p>①.4 2023年度版新居浜高専教員シーズ集(Vol.15)を作成し、ウェブサイトで公開した。また、社会からのニーズが高く、ウェブ版に加え印刷・発刊し、関係企業等への配布を行った。</p>
<p>②.1 高専リサーチアドミニストレータ(KRA)や地方公共団体の関係者から情報収集を行い、共同研究・受託研究の受入れを促進する。</p> <p>②.2 マッチングイベント(オンライン含む)への出展を積極的に推進し、社会へ情報発信するとともに知的財産化にも努めるように促す。</p>	<p>②.1 愛媛県東予地方局との連携事業等に協力し、研究や学生への就職支援など、地域との連携を強化できた。</p> <p>②.2 マッチングイベント(オンライン含む)への出展は行えていないが、各種情報収集、PR活動の成果として、着実に共同研究等が実施できている。</p>
<p>③-1.1 情報発信力の強化のために、YouTubeに作成した本校広報チャンネルの改善について検討する。</p> <p>③-1.2 画像や文字による情報発信に加え、動画コンテンツの作成及び内容の検討を行う。</p>	<p>③-1.1 YouTubeに作成した本校広報チャンネルの改善については、改善に向けて検討中である。【再掲】1. 1(1)①-1.3</p> <p>③-1.2 昨年開設したWebページを改装し、学校紹介ページとして活用している。また、新規の動画なども多数掲載している。</p>
<p>③-2 各種イベントの開催情報、地域連携の取組、教職員及び学生の特徴ある教育研究活動等については、ウェブサイトで公開するとともに、積極的に報道機関へ情報発信を引き続き行う。また、地域の地上波テレビ局でのCM放映や情報サイト、情報誌等へも引き続き情報発信を行う。報道された内容等については機構本部へその都度報告する。</p>	<p>③-2 ウェブサイトにおいて各種イベントの開催情報、地域連携の取組、教職員及び学生の特徴ある教育研究活動等について適時公開している。また、報道機関への情報発信も行い、新聞等のメディアで掲載されている。また、昨年度、広く本校の名称を認知してもらうために実施した地上波テレビでのCM放送について、中学校から得た情報から今年度は放送時期を見直して実施している。また、他にも情報サイト、情報誌等へも情報発信を行っており、報道された内容等については機構本部へその都度報告を行っている。</p>
<p>1.3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1 先行して参画している他高専の情報を収集しながら、本校の強みを生かした支援のあり方を検討し、可能な限り支援・協力を行う。</p>	<p>1.3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1 中四国ブロックの高専で情報交換をしつつ、検討している。さくらサイエンス事業に採択され、3月初にポリテクSTMIジャカルタと交流予定。高専教育を活かす道を協議する機会を得た。</p>
<p>①-2 先行して参画している他高専の情報を収集しながら、本校の強みを生かした支援のあり方を検討し、機会があれば可能な限り支援・協力を行う。</p>	<p>①-2 モンゴルに対する取組は、ほとんどできていない。</p>

年度計画	進捗状況
<p>①-3.1 タイ高専での教育活動を経験した本校の教員を中心に情報収集・共有を行うとともに、今後も教員派遣に積極的に協力する。</p> <p>①-3.2 タイ高専からの長期留学生、1か月インターンシップ生を受け入れ、その機会をとらえてタイ高専教員と意見交換を行う。</p>	<p>①-3.1 タイ高専での教育活動を経験した本校の教員を中心に情報収集・共有を行い、KOSEN-KMITL学生の1か月研修を受け入れた。今後についてもすでに教員派遣の希望を提出しており、積極的に協力していく方針である。</p> <p>①-3.2 タイ高専からの長期留学生および1か月インターンシップ生を受け入れ、今後の交流についてタイ高専教員と意見交換を行った。</p>
<p>①-4 先行して参画している他高専の情報を収集しながら、本校の強みを生かした支援のあり方を検討し、機会があれば可能な限り支援・協力をを行う。</p>	<p>①-4 ベトナムに対する取組は、ほとんどできていない。</p>
<p>①-5.1 英文併記の学校案内やウェブサイトの英語版コンテンツを活用した広報活動を行う。【再掲】1. 1(1)②-2.2</p> <p>①-5.2 在学中の留学生の活動をウェブサイト等で発信し、本校での学業及び生活の様子を随時紹介する。【再掲】1. 1(1)②-2.3</p> <p>①-5.3 海外の教育機関との提携を進め、交流を促進する</p>	<p>①-5.1 英文資料を活用し、広報活動を行っている。【再掲】1. 1(1)②-2.2</p> <p>①-5.2 留学生の活動をWebサイト等で積極的に紹介している。【再掲】1. 1(1)②-2.3</p> <p>①-5.3 今年度中に海外2校と協定を結ぶ予定。</p>
<p>② 本校の学生・教職員の海外派遣・国際交流活動を積極的に支援するとともに、第4ブロック及び機構本部の事業に参画することにより、本校と「高専(KOSEN)」の認知度を高めていく。</p>	<p>② 本校の学生・教職員の学内予算・寄付金などを利用して国際交流活動を支援し、日台カンファレンスを主催、タイ高専1か月研修を実施するなど第4ブロックと本部事業に積極的に参画し、本校と「高専(KOSEN)」の認知度を高めた。</p>
<p>③-1.1 現在の提携校との連携を強化し、また海外教育機関との新たな提携を進め、海外留学やインターンシップなど学生交流を積極的に行う。</p> <p>③-1.2 タイ高専での教育活動を経験した本校の教員を中心に情報収集・共有を行うとともに、他高専の単位認定制度も参考にしながら、本校の実施形態に合った単位認定制度について検討する。</p> <p>③-1.3 海外の教育機関と積極的に提携し、海外に積極的に送り出し、あわせて短期留学生を積極的に受け入れ、かつオンラインも利用して交流を促進しキャンパスの国際化を推進する。【再掲】1. 1(2)-③-1</p>	<p>③-1.1 中国・台湾・インドネシアの提携校との連携を強化し、充実した交流ができた。今年度中に海外2校と協定を結ぶ予定。</p> <p>③-1.2 タイ高専1か月研修を実施し、タイ高専に関与した教員と情報共有ができ、検討が進展した。</p> <p>③-1.3 短期留学生の受入数は今年度38名、オンラインでの交流も行った。【再掲】1. 1(2)-③-1</p>
<p>②-2.1 本科1年生に開設した「リベラルアーツ演習」を通してグローバルマインドの育成する。</p> <p>②-2.2 「英会話演習」と「海外語学研修」を運用し、国際コミュニケーション力向上に活用する。</p> <p>②-2.3 学生でつくる国際ボランティアクラブと協働して国際交流イベントを企画し、留学経験者や外国人留学生・外国人教師と関わる機会を課外で積極的に設ける。1. 1(2)-②-2の再掲</p>	<p>③-2.1 AL型授業で主体的な学びを行い、十分な成果があった。</p> <p>③-2.2 効果的な運用によって参加する学生が増加した。</p> <p>③-2.3 国際ボランティアクラブが主体的に活動し、留学生を楽しませた。報告会や文化祭で留学経験者と交流する機会を設けた。台湾短期留学生・外国人教師は授業などに積極的に参加している。1. 1(2)-②-2の再掲</p>
<p>③-3.1 「トビタテ！留学JAPAN」プログラムの採用実績等について、ウェブサイト等で広報を行う。</p> <p>③-3.2 留学する学生に対して、実りある留学となるよう事前指導を行うとともに、留学終了後には学内で報告会を開催する。</p> <p>③-3.3 その他、各種奨学金の情報提供を行う。【再掲】1. 1(2)-③-3の再掲</p>	<p>③-3.1 採択者はHPのトップで紹介し、実績を報告している。</p> <p>③-3.2 事前に日常の生活用語の学習や注意事項の説明を行い、事後には報告会を実施している。</p> <p>③-3.3 外部の奨学金の情報提供はそのつど周知している。【再掲】1. 1(2)-③-3の再掲</p>
<p>④-1.1 新居浜市国際交流協会と協力して地域と一体となった長期留学生支援を行う。</p> <p>④-1.2 英文併記の学校案内やウェブサイトの英語版コンテンツを活用した広報活動を行う。</p> <p>④-1.3 在学中の留学生の活動をウェブサイト等で発信し、本校での学業及び生活の様子を随時紹介する。</p> <p>④-1.4 海外提携校との関係を強化し、さらに新たな提携先を開拓して、短期留学生の受入を促進し、あわせて施設、受入体制を整備を行う。【再掲】1. 1(2)-②-2</p>	<p>④-1.1 協会主催行事や日本語指導など地域と協力して支援。</p> <p>④-1.2 英文資料を活用し、広報活動を行っている。</p> <p>④-1.3 留学生の活動をWebサイト等で積極的に紹介している。</p> <p>④-1.4 中国・台湾・インドネシア提携校・タイ高専との関係を強化し、教員・学生の短期受入(計50名)。提携先を今年度中に2校増加。受入施設の設置を申請中。体制も強化。【再掲】1. 1(2)-②-2</p>
<p>④-2 KOSEN-KMITL及びKOSEN KMUTTから本科3年次への留学生の受入を実施する。あわせて、KOSEN-KMITLの1か月実習を受け入れる。</p>	<p>④-2 3年次編入、1か月研修について受け入れを行った。</p>

年度計画	進捗状況
<p>⑤-1 昨年度作成した海外渡航マニュアルをもとに、海外渡航時における連絡体制及び危機管理体制を充実させる。</p> <p>⑤-2 海外渡航時には海外旅行保険への加入を義務付ける。</p> <p>⑤-3 外国人留学生に対してグローバル教育センター、留学生指導教員及び学生チューターによる学業・生活支援を今後も継続し、状況を把握し、適宜指導を行う。</p> <p>⑤-4 外国人留学生が学内外で充実した生活を送ることができるよう地域の支援団体の協力を仰ぐ。</p>	<p>⑤-1 マニュアルをもとに危機管理体制を築いている。</p> <p>⑤-2 保険加入を義務付け、提出書類に記入させている。</p> <p>⑤-3 指導教員と連絡をとって状況を把握したり、グローバル教育センターが定期的にミーティングを行ったりして適宜指導している。</p> <p>⑤-4 新居浜市国際交流協会と連携し、その主催イベントに参加させたり、日本語教育に協力していただいている。</p>
<p>2. 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>2.1 一般管理費等の効率化</p> <p>① 一般管理費縮減のため、予算の計画的な執行と適正な物品管理に努める。各種事業・行事等の実施に当たっては、関係機関等と連携を密にし効率的に運営する。</p> <p>② 少額随意契約の基準額を超える契約については、真にやむを得ないものを除き、原則、一般競争入札等により実施するとともに、契約条件等の見直しを行うなど競争性の確保に努める。また、契約の適正化を図るため、一括契約ができるよう計画的に進める。</p> <p>③ 本校作成の「財務会計マニュアル」をさらに充実させるため、見直し等を行う。</p>	<p>2. 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>2.1 一般管理費等の効率化</p> <p>① 予算の計画的執行及び適正な物品管理に努めている。各種事業・行事等の実施については、関係部署等と連携して効率的に運営できている。本部からの新型コロナウイルス感染症対策費を活用し、一般管理費の縮減に努めている。</p> <p>② 一般競争入札における一者応札の見直しとして、仕様策定段階で複数者が応札可能な仕様とすることを徹底し、競争性の確保、より安価で適正な価格での契約に努めている。</p> <p>③ 「財務会計マニュアル」については、現在の状況に則した内容にするため、改訂作業を行っている。</p>
<p>2.3 給与水準の適正化</p> <p style="text-align: center;">高専機構本部</p>	—
<p>2.3 契約の適正化</p> <p>① 少額随意契約の基準額を超える契約については、真にやむを得ないものを除き、原則、一般競争入札等により実施するとともに、契約条件等の見直しを行うなど競争性の確保に努める。また、契約の適正化を図るため、一括契約ができるよう計画的に進める。</p> <p>【再掲】2.1②</p>	<p>2.3 契約の適正化</p> <p>① 一般競争入札における一者応札の見直しとして、仕様策定段階で複数者が応札可能な仕様とすることを徹底し、競争性の確保、より安価で適正な価格での契約に努めている。</p> <p>【再掲】2.1.②</p>
<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p>3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理</p> <p>・校長裁量経費として、教育研究推進費、共同研究推進費及び外部資金獲得推進費を設け、社会貢献・地域連携促進につながるよう予算措置を行う。</p> <p>・運営費交付金の会計処理について、業務達成基準による収益化が原則とされたことに注意し、収益化単位の業務ごとに予算管理する。</p>	<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p>3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理</p> <p>① 教育研究推進費、共同研究推進費は5月に募集を行い、7月に該当教員へ予算配分を行った。外部資金獲得推進費については、外部資金の申請状況に基づき、4月及び11月(予定)に当該教員へ予算配分を行った。</p> <p>② 業務達成基準の収益化については、業務終了時に収益化できるよう、収益化の単位ごとに予算管理を行っている。</p>
<p>3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加</p> <p>①.1 科学研究費の申請・採択件数の増加を目的とし、関連情報を学内へ周知するとともに講習会等を実施する。</p> <p>①.2 研究業績の向上と外部資金獲得を目的に、学術論文誌への投稿を義務付けた校長裁量経費「共同研究推進費」の募集を行う。</p> <p>①.3 卒業生が就職した企業、同窓会等からの寄附金の獲得につながる取組を検討する。</p> <p>①.4 イノベーションジャパン等の各種マッチングイベントについては、出展に係る経費の一部を支援するなど積極的に参加を推奨することで共同研究等に繋げる。</p>	<p>3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加</p> <p>①.1 科研費採択教員による科研費セミナーを実施した。本年度の実施件数(代表)は21件となり過去最高の件数である。また、機構内の査読ネットワークも活用した。</p> <p>①.2 校長裁量経費「共同研究推進費」を実施し3件を採択した。また、審査において外部資金への申請の観点も明確にできた。</p> <p>①.3 新居浜高専基金を設立し、寄附金の獲得拡大につながるPRを継続してしている。</p> <p>①.4 公益財団法人 えひめ東予産業創造センター等を通じて、地元企業との共同研究強化の取り組みを継続している。</p>

年度計画	進捗状況
3. 3 予算	—
3. 4 収支計画	—
3. 5 資金計画	—
4. 短期借入金の限度額	—
5. 不要財産の処分に関する計画	—
6. 重要な財産の譲渡に関する計画	—
7. 剰余金の使途	—
8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項	8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項
8. 1 施設及び設備に関する計画	8. 1 施設及び設備に関する計画
<p>①-1 国立高専機構個別施設計画(改修予定事業等)年次計画に基づき、R6年度概算要求として【螢雪寮改修】【電子制御工学科棟改修】【第1体育館改修】の3事業の要求書を提出。示達に備え、移転・仮運用計画、新規物品購入計画の立案を行う。また、R7年度要求予定事業【学寮食堂改修】【環境材料工学科棟改修】【第2体育館改修】についてはキックオフ済みとなっており、R6年度要求事業の状況に合わせて、学内調整を加速する。</p>	<p>①-1 文科省より8月末に公表された予算要求書評価結果に基づき、[S]評価をいただいた、【螢雪寮改修】【電子制御工学科棟改修】について、事業実施に向けキャンパスマスタープラン策定WG内で詳細検討中。11月上旬には仮運用計画策定完了の見込みで、その後、移転費要求に向けた準備に入る。また、予算要求時に作成したヒアリングシート記載の新規購入物品希望の見直し中。完了次第、こちらも予算要求に向けた準備に入る。</p>
<p>①-2 非構造部材の耐震点検・耐震対策チェックリストに基づくパトロールを月一回のペースで実施し、緊急度に応じて対策を講じる。</p>	<p>①-2 計画通り実施中</p>
<p>② 新入生及び新任教職員に「実験実習安全必携」を配付する。また、学外から講師を招いて、放射線業務従事者講習会を実施する。</p>	<p>② 新入生及び新任教職員に「実験実習安全必携」を配付した。8月に愛媛大学から講師を招いて、放射線業務従事者講習会を実施した。</p>
<p>③-1 キャンパスマスタープラン策定WGを通じて、女性教職員、女子学生のニーズの吸い上げを行い、キャンパスマスタープランへの反映を行う。 ③-2 女子学生の受入を推進するため、現在進行中のトイレ改善整備計画H23年度版の完了を目指す。H23年度計画版の完了後は、R4年度新たに策定した次期トイレ改修計画を推進する。</p>	<p>③-1 10月末までにWGを2回開催したが、特に要望は上がっていない。 ③-2 トイレ改修については、3月末までに今年度計画分の実施を予定している。</p>
8. 2 人事に関する計画	8. 2 人事に関する計画
(1)方針	(1)方針
<p>①.1 休日のクラブ安全管理指導員は、外部委託による体制を継続し、学生活動の現状についての情報連携の強化を図る。また、外部指導員を活用した課外活動支援を検討し、実施のための人件費の確保や具体的な業務内容についても検討する。 ①.2 学生相談は、従来どおりの外部委託によるスクールカウンセラー、スクールカウンセラー等の人員を確保し、平日毎日の相談に対応できる体制を維持・継続する。【再掲】1. 1(5)①.2 ①.3 保健室の看護師も常勤1名、外部委託1名の常時2名体制を継続し、学生相談の窓口となる連携強化に努める。【再掲】1. 1(5)①.3 ①.4 教員の負担軽減を目的とし、学生寮日直業務及び学寮指導業務は、外部委託を継続する。また、2名体制の宿直業務のうち1名について、土・日・祝日と平日の一部を外部委託しているが、これを継続し、平日の外部委託は増進していく。</p>	<p>①.1 休日のクラブ安全管理指導員は、外部委託による体制を継続し、学生活動の現状についての情報連携の強化を図った。また、外部指導員を活用した課外活動支援の人件費を確保し、サッカー部に「引率指導員」を配置した。 ①.2 カウンセラーは精神科医・臨床心理士・SSWなどを平日には配置している。スクールカウンセラーと連携し、学生保健委員会を中心にピアサポーター育成に取り組んでいる。学級担任の個別面談は4月に実施し、事件・事故防止のため学生の出席状況把握を全学的に取り組んでいる。【再掲】1. 1(5)①.2 ①.3 看護師の2名体制を維持し、窓口の強化は達成できている。【再掲】1. 1(5)①.3 ①.4 教員の負担軽減のため、学生寮日直業務及び学寮指導業務は、外部委託を継続し、土・日・祝日は、宿直者2名の内1名について外部委託をすることとなった。平日の外部委託については、今年度は配置しないこととした。</p>
<p>② 教員の戦略的配置のための教員人員枠の再配分を行う。また、国立高等専門学校幹部人材育成のための計画的な人事交流を行う。</p>	<p>② 教員の戦略的配置のため、今後の各年度における各学科・科の人員配分案を検討し、学内の人事構想を毎年更新している。また、高専本部に派遣中の教員が来年度4月に本校に復帰する。今後も人材育成のため、適任者に対する計画的な人事交流を検討する。</p>

年度計画	進捗状況
<p>③ 第4期中期目標・計画期間中に達成すべき人員枠「73」の枠の中で、教授枠を利用しての助教枠の運用を行うことにより、若手教員の採用枠を確保する。</p>	<p>③ 第5期中期目標・計画期間の初年度は人員枠「73」の枠の中で、教授枠を利用しての助教枠の運用を行うことにより、若手教員の採用枠を確保しつつ、今後の採用計画の立案および学内昇格人事を行っている。</p>
<p>④-1 専門科目の教員公募では、「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」を応募資格とする。ただし、一般教養科の教員公募では、原則は「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」ではあるが、分野によっては、「修士の学位」であっても「博士の学位を有する者」と同等程度の業績がある場合もあること、また、多様な人材からの応募が期待できるという側面も考慮し、人事委員会の議を経て、「修士以上の学位を有する者」を応募資格とするケースもありうる。</p> <p>公募要領の「その他」の欄に、「多様な背景を持つ教員組織を目指しており、高等教育機関に勤務経験のある方のみならず、高等学校、民間企業、研究機関等に過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」旨の文書を記載する。【再掲】1. 1(3)①</p>	<p>④-1 電気情報工学科の公募を実施し、令和6年4月1日付け採用予定である。また、多様な背景を持つ教員組織を目指すため、公募要項のその他欄に「高等学校、民間企業、研究機関等において過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」と記載している。【再掲】</p>
<p>④-2 近隣大学の実施状況を参考に、同制度の実施可能性の高い組織(地元企業、近隣の大学・研究機関等)を想定した、協定書(案)について検討する。【再掲】1. 1(3)②</p>	<p>④-2 協定書(案)について未着手【再掲】</p>
<p>④-3 昨年度に実施した教員人事構想ワーキングにおいて、子育て中の教員の業務軽減、授業負担軽減などにより働き易さを実現できる方策について委員と意見交換を行った。学事歴の見直しにより、土日に実施していたイベントを平日に行う等の働きかけを関係部署に行う。また、同居支援プログラムに応募する教員がいれば転出後に非常勤講師等で授業をバックアップする。引き続き、働き方改革を推進すべく、年次有給休暇の取得促進、教員の担当授業科目数調査、ライフステージに応じた配慮希望調査等を進めることにより、誰もが働きやすい職場環境を整備するための具体的な方策について検討する。【再掲】1. 1(3)③</p>	<p>④-3 11月開催予定の人事構想WGおよび学校改革推進室において、教員の負担軽減策を検討することとし、推進体制の整備に着手した。一昨年度から授業週を半期あたり一週削減を継続し、授業参観等の土日に実施していたイベントを平日に行う学事歴も運用中である。また、教員1名が4月より同居支援プログラムを利用し転出しているため、非常勤講師等で授業をバックアップしている。さらに、他高専各種委員会も日中の授業の空時間を利用し、会議回数も平常時は月一回で実施する等の工夫を取り入れた。【再掲】</p>
<p>④-4 昨年度、採用した外国人教員に対する具体的支援について、本校でも所属学科及び教員自身の意見を踏まえた上で検討する。</p>	<p>④-4 昨年度の公募により一般教養科(英語)に外国人教員に対する具体的な支援について、所属学科長を中心に対応している。今後も外国人教員の採用の可能性について、該当学科の意見を踏まえて人事委員会で検討する。【再掲】</p>
<p>④-5.1 教職員対象に外部講師による男女共同参画・ダイバーシティ等に関する研修会を開催する。 ④-5.2 学外機関が主催する男女共同参画・ダイバーシティに関する研修会に男女共同参画推進室員を派遣する。 ④-5.3 男女共同参画・ダイバーシティに関する具体的な支援事業について、学内教職員への情報発信を促進する。 ④-5.4 男女共同参画・ダイバーシティに関する情報をウェブサイトにおいて発信する。 ④-5.5 第7回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会に参加し、情報の共有・普及を行う。 ④-5.6 第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムに参加し、情報の共有・普及を行う。【再掲】1. 1(1)②-1</p>	<p>④-5.1 教職員対象に外部講師による男女共同参画・ダイバーシティ等に関する研修会をオンラインで開催する。 ④-5.2 学外機関が主催する男女共同参画・ダイバーシティに関する研修会に男女共同参画推進室員を派遣する予定である。現時点では開催要項は入手していない。 ④-5.3 男女共同参画・ダイバーシティに関する具体的な支援事業について、学内教職員への情報発信を促進している。 ④-5.4 男女共同参画・ダイバーシティに関する情報をウェブサイトにおいて発信する予定である。 ④-5.5 第7回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会に参加予定だが、まだ開催要項が未到着である。 ④-5.6 第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムに参加する予定である。</p>
<p>⑤ 引き続き、近隣国立大学との積極的な人事交流を推進する。また、近隣高専と事務系職員の採用に係る合同面接を実施し、将来的な高専間の人事交流についても両高専間で検討する。</p>	<p>⑤ 今年度は人事交流により愛媛大学から5名が派遣されている。来年度も5名程度の人事交流を予定している。また、弓削商船高等専門学校と合同で職員の新規採用面接を実施した。</p>
<p>(2) 人員に関する指標</p> <p>常勤職員の職務能力を向上させるための機会(各種研修への参加推奨、自律的な活動への評価等)、業務の効率化を図るための方策(業務改善アイデア)、事務のIT化(グループウェアの活用等)に向けた取組等を通じて、人材の育成及び人材の適切な配置に努める。</p>	<p>(2) 人員に関する指標</p> <p>職員の各種研修等については、積極的に参加させており、人材の育成に努めている。また、昨年度からGaroonを導入し、事務だけでなく学内全体のIT化を図った。</p>

年度計画	進捗状況
<p>8. 3 情報システムの適切な整備・管理及び情報セキュリティについて</p> <p>新居浜高専として、情報戦略推進本部に協力して取り組む。情報担当者を対象として研修に参加するとともに、愛媛県官民連携IT人材育成支援コンソーシアムに参加し、人材育成を図る。情報セキュリティ監査の結果に対して対策を講じる。全教職員に対するインシデント対応訓練、情報セキュリティ教育を、計画に基づいて実施する。本部と連携し、すぐやる3箇条の周知、情報セキュリティインシデントの予防や啓発を実施する。</p>	<p>8. 3 情報システムの適切な整備・管理及び情報セキュリティについて</p> <p>情報セキュリティ監査における指摘事項に対して、順次対策を講じている。第1回・第2回インシデント対応訓練を実施した。職場巡視の際に、すぐやる3箇条の掲示を確認するとともに、運営会議、教員会などにおいて、実施の徹底を啓発している。</p>
<p>8. 4 内部統制の充実・強化</p> <p>①-1 予算配分等の重要課題については、校長のリーダーシップの下、運営会議等において迅速かつ効果的に意思決定を行う。また、他高専等との間では必要に応じてWEB会議システムを活用する。</p> <p>①-2 校長・事務部長会議等で得た情報については、校長が運営会議や教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底を図る。</p> <p>①-3 ブロック校長会議等において、学校運営や教育活動の在り方等について意見交換を行う。</p>	<p>8. 4 内部統制の充実・強化</p> <p>①-1 予算配分等の重要課題については、校長のリーダーシップの下、運営会議等において迅速かつ効果的に意思決定を行うよう努めている。新型コロナウイルス感染症への対応については、必要に応じて対策本部会議を開催し方針を決定しており、本年度は2回開催して5類への移行に係る対応を協議した。なお、今年度においても各種会議等については、学内外に関わらずWeb会議システムを活用している。</p> <p>①-2 校長・事務部長会議等で得た情報については、校長が運営会議や教員会等で周知を行い、全学的な情報共有の徹底に努めている。</p> <p>①-3 第1回四国地区高専校長・事務部長会議(5月9日)、第1回第4ブロック校長会議(6月1日)、第2回同会議(10月26日)に参加し、地区及びブロック内での課題等について情報共有と連携を図っている。</p>
<p>②-1 校長は理事長との面談において得た機構全体の共通課題等について、運営会議や教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底を図る。</p> <p>②-2 校長と主事をはじめ各部門の長(専攻科長、センター長、室長)とで各担当部署における今年度の年度計画や課題等について確認を行うとともに情報共有を行う。</p> <p>②-3 校長と全教員との面談を実施する。</p>	<p>②-1 校長が理事長との面談において得た機構全体の共通課題や本校の課題等について、運営会議や教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底に努めている。</p> <p>②-2 校長と主事をはじめ各部門の長(専攻科長、センター長、室長)との間で、その都度機会を設け、課題等について情報共有に努めている。</p> <p>②-3 校長と全教員との面談を4・5月に実施した。</p>
<p>②-2.1 教職員全員を対象に機構本部作成の「コンプライアンス・マニュアル」に基づく自己点検を実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。</p> <p>②-2.2 高専機構主催の階層別研修等に参加するほか、全学的にコンプライアンス意識を浸透させるために研修等を実施する。</p>	<p>②-2.1 教職員全員を対象に機構本部作成の「コンプライアンス・マニュアル」に基づく自己点検については、今後実施する予定である。</p> <p>②-2.2 高専機構主催の階層別研修に参加しており、年度内にコンプライアンス研修を実施予定である。</p>
<p>②-3 リスク事案については、「災害及び事故事件発生時の情報連絡体制」に基づき、速やかに機構本部担当へ連絡をするとともに、本部と十分な連携のもと適切に対処する。</p>	<p>②-3 リスク事案(新型コロナウイルス感染症、情報セキュリティ関連を含む)については、「災害及び事故事件発生時の情報連絡体制」に基づき、速やかに機構本部担当へ連絡するとともに、本部と十分な連携のもと適切に対処することに努めている。</p>
<p>③-1 高専相互監査において、効率的かつ効果的な監査を実施するため、監査事項等について、会計担当職員の理解を深める。また、監査事項を中心に自己点検と職員間の相互チェックを行う。</p> <p>③-2 高専機構の不正防止計画に則した取組を確実に実施するため、適正な体制整備を行う。</p> <p>③-3 学内における内部監査等が適切に実施できるよう、随時監査内容等の見直しを行う。</p>	<p>③-1 被監査校で監査を受けるにあたり、担当者間で打ち合わせを行い、監査事項等について理解を深めた上で監査に臨む。</p> <p>③-2 学内規程が高専機構の不正防止計画に則したものとなっているか随時点検を行い、必要に応じて見直しを行うこととしている。会計機関の補助者及び金庫監守責任者については、適切に変更手続きを行った。</p> <p>③-3 学内内部監査については年度内での実施に向けて準備を進めている。</p>
<p>④ 高専機構の不正防止計画等への取組状況について、定期的に報告を行う。また、学内で策定した「適正な会計処理に向けた対応策」の見直しを継続的に実施し、高専機構の不正防止計画とともに周知徹底を図り、不正防止に努める。</p>	<p>④ 高専機構の不正防止計画等への取り組み状況については、例年状況報告を行っている。「適正な会計処理に向けた対応策」については、高専機構の規則改正時など必要の都度、見直しを行うこととしている。高専機構の不正防止計画とともに7月実施の学内研修の際に周知した。学内研修未受講者対象に年度内に再度研修を実施予定である。</p>
<p>⑤ 高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえて、具体的な指標、事項を設定した本校の年度計画を策定する。</p>	<p>⑤ 高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえて、具体的な指標、事項を設定した本校の年度計画を策定した。</p>

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程

平成17年2月8日規程第2号

(設置)

第1条 新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、地域のニーズ及び時代の変化に即応し、効率的かつ効果的な学校運営を確保するため、運営諮問会議（以下「会議」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 会議は次に掲げる事項について、校長の求めに応じ意見を述べるものとする。

- (1) 本校の運営基本方針及び教育研究計画に関すること。
- (2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関すること。

(組織)

第3条 会議は、本校の教職員以外の者で、高専に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから、校長が委嘱した若干名の委員をもって組織する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任することを妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、委員に欠員を生じたときの補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第5条 会議の議長は、委員の互選により選出する。

- 2 議長は、会議の会務を総括する。

(運営)

第6条 会議は、校長が招集する。

- 2 会議は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(報告)

第7条 校長は、運営諮問会議での審議事項について、運営会議に報告するものとする。

(事務)

第8条 会議の事務は、総務課において行う。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成17年2月8日から施行する。
- 2 新居浜工業高等専門学校外部評価委員会規程（平成13年8月29日規程第8号）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成24年11月27日から施行する。

令和5年度（第19回）

運営諮問会議報告書

令和6年3月

新居浜工業高等専門学校総務課

〒792-8580 愛媛県新居浜市八雲町7番1号

TEL：(0897)37-7700

FAX：(0897)37-7842

H P：www.niihama-nct.ac.jp